

第 1 2 期 総 会 資 料

目 次

1	2012年度	事業報告	1
	第1部	事業概要	1
		1. 本部	1
		2. 委員会	2
		3. 部会	4
		4. 研究会	6
		5. 支部	12
	第2部	会計報告及び会計監査報告	27
2	2013年度	事業計画(案)	31
		1. 本部・計画	31
		2. 委員会・計画	32
		3. 部会・計画	33
		4. 研究会・計画	34
		5. 支部・計画	37
3	2013年度	予算(案)	43



特定非営利活動法人
日本システム監査人協会

第1部 事業概要

1. 本 部

1. 1. 全般概要

(1) 会員の状況

正会員・個人・・・・・・・・・・・・・・ 815名

正会員・団体・・・・・・・・・・・・・・ 30社

(合計 845正会員/2012年12月末現在)

2012年度は、協会を挙げて会員増強策につとめた。入会者と、定年退職などによる退会者や会費未納による除名者の事務処理があり、上記のような会員の状況になった。地方会員の組織として北海道・東北・中部・北信越・近畿・中四国・九州に7支部がある。東京都中央区に本部の事務所を置いている。

(2) 理事会の活動状況

開催日 1/12, 2/2, 3/8, 4/12, 5/10, 6/14, 7/12, 9/13, 10/11, 11/08, 12/13

理事会は、当協会の活動の原点であり、活動の諸案件が毎回活発に議論され、審議・決定されてきた。その議事録は、会員メーリング・リストで報告し、会報で会員用に掲載したとおりである。

(3) 会員増強プロジェクト

ここ数年、当協会では会員数（個人、法人）が減少傾向にあり、会費収入が収入源の大半を占める協会財政基盤の不安定な状態が続いていた。そうした状況を打破すべく、2012年4月から会員増強プロジェクト（小野副会長主査）をスタートさせた。各研究会、部会、委員会、担当の代表者をメンバーにプロジェクトチームを編成し、月1回プロジェクト会議を開催し意見交換を行うとともに、研究会等ごとに会員増強施策の策定と実施を精力的に行ってきた。全国の支部長ともメーリング・リストで情報共有を図りながら活動を進めてきた。主な施策として、次のようなことを行った。

- ・新会員紹介キャンペーンの実施
- ・会報を通した、会員になることのメリットの訴求と会員増強活動の紹介
- ・月例研究会の会員参加費を値下げすることによる会員メリットの拡大
- ・月例研究会開始前に研究会などの活動をスライドショーで紹介
- ・会費未納者への電話も利用した状況確認
- ・法人会員のメリットを強調するための取組み
- ・CSAの方たちに対する各種機会をとらえたアプローチ

結果として、4月から12月までの入会者と退会者の数はほぼ同じとなり、会員数の減少に歯止めをかけることができた。また、会費未収額は昨年度を大きく下回り、協会財政にも貢献することができた。

(4) 事務局

事務局（仲事務局長、斎藤（由）理事）は、経費削減と、会員管理システム及びホームページの改善等に取り組んだ。経費削減のため2012年3月に事務所の集約を実施した。「会員システム」は、従来のPERL版からJava版に切り替えを行い、会費管理機能、CSA/ASA管理機能などの機能追加により、事務局業務の効率化に大きく貢献する成果が得られた。さらに、会費請求書発行機能を利用し、2012年度末に、全会員に対して2013年1月1日付の2013年度会費請求書を送付した。また、定款にもとづいて、ご寄附のお願いを実施し、100名を超える寄附者からご寄附をいただいた。会計（安部主査、藤澤理事）とともに会費未納者へ複数回督促を行う等の対策を講じた。定款および会員規程に則って、1年を超える会費未納による未納者除名の事務処理を行った。

2. 委員会

＞目次

2. 1. 認定委員会

(1) 公認システム監査人、システム監査人補の認定

① 認定登録の状況

1 1年目の公認システム監査人及びシステム監査人補の認定状況は以下のとおりである。

- ・公認システム監査人は、春期9名、秋期3名、
- ・システム監査人補は、春期3名、秋期11名で 合計26名。

この結果、累計では、次項の失効者を引き、公認システム監査人が349名、システム監査人補が135名、あわせて484名となる。残念ながら、申請数が減る傾向にあり、ことしも食い止めることができなかった。

面接業務は、東京地区3回、近畿、中四国、九州各1回で実施した。1組2名で原則土曜日に実施する面接には、中四国では、支部長経験者などの応援を得た。

② 認定更新の状況

2002年度、2003年度、2005年度、2006年度、2008年度に認定登録された公認システム監査人及びシステム監査人補の更新状況は、公認システム監査人の失効者78名、システム監査人補の失効者65名となっている。

失効率は、例年並であるが、更新対象者数が多く、失効者も多くなっている。

継続教育時間数の不足者に対しては、詳細な状況を問合せ、継続教育要項のうち、

「3-4. 最低義務時間に達しない場合の取り扱い(2) 各年度において長期の海外出張・留学、病気療養等の特別の事情により継続教育の受講が不可能となった場合は、その事由を付して申請することにより、当該資格の保持を一時留保することが出来る。その扱いは年度単位とし、最高で五年までとする。その間の資格は休止となり、対外的にそれぞれの認定資格の名称を使用することはできない。
一時保留中の資格を復活する場合は、任意の文書により復活申請する。その場合は、復活の時点より新たに「継続教育算定期間」が開始することになる。なお、資格の一時留保中の期間については、手数料等は徴収しない。」

を適用する事例も出ている。

③ 特別認定講習実施状況

表記については、詳細は別項の教育研修委員会(中山孝明主査)の報告による。

2. 2. CSA利用推進

＞目次

(1) 活動の概要

- ① CSA利用推進の取組みは本年度で7年目を迎えた。本年度は、今までと同様にCSAのフェイスTOフェイスの相互研鑽、情報共有、議論の場としてCSAフォーラムを年2回開催した。
- ② CSAフォーラムは、CSA(ASA含む)百数十名の事前登録者を対象に、第15回を9月、第16回を11月に開催した。
- ③ 各回とも20名前後の参加者が集まり、講師による実践的なテーマ報告と時間を掛けた質疑応答による参加者との意見交換により、有益な場の提供とフェイスTOフェイスの交流が進んだ。
- ④ 第16回開催時には事前登録者だけでなくCSAメーリング・リストにてCSA(ASA含む)全員に参加を呼びかけ、その結果3名の新規参加者があった。
- ⑤ CSAフォーラム以外のCSA利用推進Gの会合がほとんどできず、CSAパンフレット、CSA認定カード、CSAを入札条件に入れる依頼文の周知、CSA関連サイトの充実等について活動できなかった。CSA利用推進Gの担当理事やスタッフの体制強化が課題である。

(2)活動の目的

- ①「CSAのプレゼンスを高める。CSAの社会的な評価や価値を高める。CSAの社会的な認知度を上げる。CSAになって良かったと思ってもらえる。CSA認定の付加価値を高める。CSAが社会的に認められ活動がしやすくなる」という活動目的を当初から掲げている。
- ② 本年度もCSAフォーラムの開催によりCSA同志の交流と輪を広げ、相互連携等を行うことを活動目標とした。
- ③ CSA資格の更新を行なわない方が多かったという状況を踏まえ、会長からの指示もあり、CSA活性化活動の推進役を務めることになった。本年度は課題の取りまとめだけに留まってしまったが、来年度につなげていきたい。

(3)CSAフォーラム活動

- ① CSA認定取得者の相互研鑽、情報共有、フェイスTOフェイスの意見交換の場として、“CSAフォーラム”を開催している。当初の事前登録者約100名に対して、“CSAフォーラム”の開催案内を発信して、各回とも20名前後の参加者を得ることができた。さらにCSA全員にも開催案内を流し、参加者の追加を諮った。今年の開催内容は次の表の通りであった。

月日	開催回	テーマ	報告者	概要
9/14	第15回	誤解はどこから来るのか？	赤尾 敏夫氏 (エイ・ティ・アソシエイツ代表)	・ステークホルダー間での『誤解』 ・『誤解』の発見、判明、解決 ・『誤解』が発生する原因と対策 (新たな視点から)
11/19	第16回	苦情対応プロセスの国際標準：JISQ10002 とは	畠中道雄氏 (㈱クレハ お客様相談室)	・クレーム処理に関する現状と課題

2. 3 教育研修委員会

＞目次

前年度と同様、特別認定講習実施機関（2社）に委託し次の特別認定講習コースを実施した。
(受講者数は延べ人数)

(1)論文・プレゼンテーションコース（1日コース）

- 1) 実施回数：東京0回、大阪2回 計 2回
- 2) 実施時期：2月1回、7月1回、
- 3) 受講者：2名（前年度実績 5回 受講者 7名）

(2)システム監査に関する知識コース（2日コース）

- 1) 実施回数：東京2回、大阪1回 計 3回
- 2) 実施時期：1月1回、6月1回、7月1回
- 3) 受講者：3名（前年度実績 5回 受講者 8名）

(3)情報システムに関する知識コース（2日コース）

- 1) 実施回数：東京0回、大阪0回 計 0回
- 2) 実施時期：—
- 3) 受講者：0名（前年度実績 0回 受講者 0名）

(4)実施回数合計

- ・1日コース2回、2日コース3回 計5回、受講者 5名
(前年度実績 1日コース5回、2日コース5回、合計10回、受講者 15名)

(5)講習コース運営管理

- ・各コースともに採点結果を事務局で評価した。採点・評価に問題発生はなく、本年度も当委員会でのテストは発生しなかった（再テストは講習実施機関で実施されている）。
- ・特別認定講習を通じたCSA増加に資するため、講習開催状況を会報に掲載しPRしている。
- ・前年度計画に従い2012年6月講習実施分からデジタルデータでの保管を開始した。

3. 部会

>目次

3. 1. 会報

「日本システム監査人協会会報」は、会員やシステム監査人のコミュニケーションの場として、会報部会（主査 仲 厚吉）が編集し発行している。会報は、電子版を月次発行し、読者がダウンロードして印刷できるようにしている。また、会員やシステム監査人が、ネット上で意見交換できる仕掛けも用意している。

(1) 概要

会報部会では、経費削減（印刷費削減、会員の送付先変更に伴う返送対応の削減）及び、電子書籍の普及に伴う利便性向上を実現するため、会報をすべて電子版発行に切り替えた。会報公開サイト（<http://skansanin.com/saa-j/>）は、外部からのコメント投稿を歓迎し、会員以外との開かれた交流につとめている。また、スマホでも、閲覧できるように運用を始めた。

会報編集委員は7人体制とし、会報の月次発行、投稿の呼びかけなどタイムリーな情報発信ができるように陣容を整え、読者の意見や、メッセージを集めている。会報のテーマについては、134号から、3か月にわたって、初めの号の会報編集委員が思うテーマを決めて、編集する運用を行っている。

会報は、特定刊行物として国立国会図書館へ納品され、一般の検索、閲覧に供されている。会報の記事には、匿名の「めだか」記事と、記名の投稿記事がある。「めだか」記事は、匿名投稿者の個人的な意見表明であり SAAJ の見解ではないことをうたっているため、誹謗中傷でないかぎり何でも投稿でき、外部へも思い切った発言を行うことができる。かたや、記名投稿記事は、会員番号、氏名、所属部会・研究会、支部をあきらかにしているわけで、会員やシステム監査人の履歴書に掲載する記録になりえるものである。

(2) 2012年に発行した会報の内容

システム監査人のコラム「めだか」は、会員やシステム監査人が、どなたでも投稿できるように匿名（めだかネーム）を採用している。重複しないよう、これまでの投稿者が使用したネームを確認して投稿していただきたい。下記に一覧表を掲載する。

記名投稿記事は、部会・研究会活動、支部活動報告の他、投稿者のシステム監査への考察や提言があげられている。

号・年月	めだか（めだかネーム）	編集委員
131号 2012.1	・オリンパス会計監査人の責任(真却辺利) ・認定特定非営利活動法人への考察(空心菜) ・「なんちゃって」には未来がない(いつかエトワール)	桜井由美子
132号 2012.2	・共通番号制「マイナンバー」利用成るか(格物致知)	竹下和孝
133号 2012.3	[総会特集号のため休載]	竹下和孝
134号 2012.4	[3か月テーマ:システム監査人の悩み] ・システム監査人の悩みは深い(広太雄志) ・悩みは成功・成長への足がかり(やじろべえ)	安部晃生
135号 2012.5	・システム監査人の悩みー安全・安心への考察(空心菜) ・システム監査人の自問自答(広太雄志)	越野雅晴
136号 2012.6	・システム監査人のディレンマ(広太雄志) ・システム監査人の悩みー「ふしぎなキリスト教」を読んで(空心菜) ・システム監査人のなやみ(逍遙庵)	桜井由美子
137号 2012.7-8 合併	[3か月テーマ:システム監査のすすめ] ・私が捉えるシステム監査の魅力(広太雄志) ・システム監査のすすめ(空心菜)	仲厚吉

138 号 2012.9	・震災対策とシステム監査(山の彼方) ・監査人の心得(空心菜) ・監査の中でのシステム監査の立ち位置(広太雄志) ・システム監査とお免状(S)	中山孝明
139 号 2012.10	・各当事者がシステム監査の本質的な弱点を認識して(広太雄志) ・見えざる手と同感 (空心菜) ・システム監査人が“醍醐味”を感じる時(山の彼方) ・クラウド事業者の監査(くぎ煮)	藤澤博
140 号 2012.11	〔3か月テーマ:システム監査人のやりがい〕 ・システム監査の真の顧客は誰か(広太雄志) ・システム障害管理の・・・ホヘト(山の彼方) ・情報システムの健全性について(空心菜) ・『国富論』の時代と現在(空心菜)	藤野明夫
141 号 2012.12	・仕組み(コントロール)を憎み、人を憎まず(広太雄志) ・事実と評価について(空心菜) ・それは思い違いかも(山の彼方) ・ICT革命の進展とICTシステム専門家に求められるもの(逍遙庵)	安部晃生
142 号 2013.1	・見当識や心の理論について(空心菜) ・杵柄(きねづか)、年(とし)の功(こう)(山の彼方) ・監査人の余禄(広太雄志)	越野雅晴

(3)2012 年の会報アワード (めだか、記事、支部報告)

「めだか」×1、「記事」×1、「支部報告」×1

(4)2012 年の投稿論文

該当なし。

3. 2. 法人部会

[≧目次](#)

(1)法人正会員 30社 (2012 年末現在)

- 1) 入会：1 社 (株式会社 トレアロウフォース)
- 2) 退会：5 社

(2)活動内容

- ①定例部会を、原則、月 1 回開催した。
- ②法人正会員の増強を図るべく、会員増強プロジェクトと連携し、種々検討・提案を行った。
 - ・中山理事と共に「企業内ワークショップ支援サービス」の企画・検討を進めた。
 - ・法人会員企業の社員であれば月例研究会参加費を会員価格とするよう提案し、採用された。
 - ・会報の会員増強プロジェクトのコーナーに法人部会の取組みを掲載した。
- ③「自治体向け情報セキュリティセミナー」の内容を見直し、2012 年度版として案内した。
 - ・セミナー案内の DM を、全国都道府県、関東各都県の市以上、および東京都 23 特別区の自治体に送付した。
 - ・当協会の Web サイトで広報活動を行った。
- ④千葉県香取市様からセミナー開催の依頼をいただき、法人会員企業が講師になって、セミナーを実施することで準備した (2013/2 実施予定)。
- ⑤「民間企業・団体向け情報セキュリティセミナー」の内容を見直し、当協会の Web サイトでの広報、FISA (情報システム・ユーザー会連盟) 主催のシステム監査講演会 (2012/10 開催) での案内チラシの配布を行った。
- ⑥会員同士のシステム監査の普及・ビジネス化についての情報交換を行った。今年度は「クラウドサービス利用のための情報セキュリティマネジメントガイドライン」(経済産業省)をとり上げ、読合せ、情報・意見交換を行った。

4. 研究会

[>目次](#)

4. 1. 月例研究会

月例研究会(木村裕一主査)は、システム監査に関連する、時代の動向を先取りした主題で講演会を設営し、2012年度は10回(2013年1月分を含む)開催。12月までの開催では919名(前年比46名減)、平均参加者数は102名(前年比6名減)の参加を頂いた。

2012年度は、以下の通り年間10回の研究会(前年比1回増)を実施した。

回	開催月日／場所	2012年 月例研究会開催実績 テーマ／講師	参加人数
170	4月25日(水) 機械振興会館 ホール	テーマ:第18回「企業IT動向調査2012(11年度調査) ～データで探るユーザー企業のIT戦略～ 講師:社団法人 日本情報システム・ユーザー協会(JUAS) 常務理事 原田 俊彦 氏	105
171	5月21日(月) 機械振興会館 ホール	テーマ:「ソフトウェア品質監査制度について」 ～ソフトウェアの品質説明力強化の取り組み～ 講師:独立行政法人情報処理推進機構/IPA 技術本部 SEC 統合系プロジェクト&組み込み系プロジェクト サブリーダー 工学博士 田丸 喜一郎 氏	109
172	6月20日(水) 機械振興会館 ホール	テーマ:「社会保障と税に関わる番号制度について」 講師:内閣官房 社会保障改革担当室 参事官補佐 黛 孝次 氏	82
173	7月20日(金) 機械振興会館 ホール	テーマ:「改正不正アクセス禁止法の概要について」 「標的型攻撃メールの特徴と対策」 講師:警察庁生活安全局 情報技術犯罪対策課係長 吉田 裕紀氏 独立行政法人 情報処理推進機構 IPA 技術本部 セキュリティセンター調査役 木邑 実 氏	118
174	8月29日(水) 機械振興会館 ホール	テーマ:「事業継続マネジメントの現場・現実とは」 講師:株式会社 富士通総研 第二コンサルティング本部 BCM事業部長 伊藤 毅氏	121
175	9月27日(木) 機械振興会館 ホール	テーマ:「新しい時代のシステム監査を考える」 講師:東京海上日動システムズ株式会社 代表取締役社長 横塚 裕志 氏	126
176	10月26日(金) 機械振興会館 ホール	テーマ:「コーポレート・ガバナンスとITガバナンス」 ～監査役の視点から～ 講師:アリアンツ生命保険株式会社 監査役 河邊(こうべ) 精一 氏	95
177	11月21日(水) 機械振興会館 ホール	テーマ:「SNSの利用とその危険性について」 講師:日本アイ・ビー・エム株式会社 経営品質・情報セキュリティ 情報セキュリティ推進室 シニアセキュリティ アナリスト 守屋 英一 氏	65
178	12月17日(月) 機械振興会館 ホール	テーマ:「予兆型システムリスクに挑む」 —先進的なこれからのシステムリスク管理、監査を提案する— 講師:講師:T. M. A パートナーズ(株) 代表取締役 遠藤 誠 氏 NPO法人 日本システム監査人協会 理事	98

回	開催月日／場所	2012 年 月例研究会開催実績 テーマ／講師	参加人数
179	2013 年 1月 22 日(火) 機械振興会館 ホール	テーマ:「システム監査基準のISO化について」 講 師: 日本システム監査人協会「システム監査基準研究会」	100

- 2012 年度は年間 10 回（2013 年 1 月開催を含む）開催した。前年比 1 回増。総参加者数は 919 名（前年比 46 名減）で、各回の平均参加者数は 102 名（前年比 6 名減）であった。
- 引き続きホットなテーマ、幅広い講師招聘をすすめ、多くの会員等の期待に応えていきたい。
- 2012 年は、会員の参加費を 1000 円と従来比 1000 円値下げし、より参加しやすいようにした。これは会員増強活動の一環でもある。会員参加費の減収を会場費支出を抑えることで補うべく、会場を 2011 年まで使用した総評会館（千代田区神田駿河台）から港区芝公園の機械振興会館ホールに移して開催している。
- 参加者の内、当協会の会員以外の方の割合が約 31%（前年比 6%減）であった。当協会の月例研究会が、協会以外の方々からも引き続き注目され、今年も毎回多くの方々にご参加頂いた。
- 会員増強につとめるべく、非会員向に会員勧誘の案内を（予定のお知らせを兼ね）配布した。また、協会活動の PR を研究会開催前の時間にスライドにより始めた（会員増強活動の実現）。
- 講師の方の所属は、中央官庁が 3 名、民間企業が 4 名、諸団体が 4 名（監査法人、当協会を含む）であった。これはほぼ予定通りのバランスであった。
- 4 月の月例研究会参加者にアンケート調査を実施し、開催テーマ選定、また、会場運営の参考にさせてもらった。また、開催日決定の案内を決定次第、会場で案内すると共に、決定次第ホームページ、メーリング・リストで速報することを徹底した。
- 各支部へ配付している録画ビデオは、各支部主催の研究会等でこれまで以上に積極的に活用されている。
- 引き続き受付に学生アルバイトを配置し、多くの参加者のスムーズな受付業務を心がけた。

4. 2. システム監査事例研究会

>目次

(1) 研究会メンバー

113 名（2012 年 12 月現在）

(2) 月例定例会開催

- 1) 定例会 毎月第一水曜日 18:30～20:30
12 回開催 延べ出席者数 117 名
- 2) 内容

- ・事例研主催セミナーの開催方式見直し
- ・実践セミナー等の教材見直し方針の決定と改訂実施

	開催月日	参加人数	内容
1	1 月 4 日	12 名	年度活動報告・活動計画の確認
2	2 月 1 日	14 名	第5回課題解決セミナー教材確認
3	3 月 7 日	8 名	セミナー開催報告、第6回課題解決セミナー教材
4	4 月 4 日	11 名	月例会の運営方式検討
5	5 月 2 日	6 名	監査ノウハウ白熱教室(災害対策の適切性)
6	6 月 6 日	12 名	監査ノウハウ白熱教室(経営者視点の監査)
7	7 月 4 日	12 名	監査ノウハウ白熱教室(開発プロジェクト)
8	8 月 1 日	7 名	監査ノウハウ白熱教室(データ消失)
9	9 月 5 日	10 名	監査ノウハウ白熱教室(日本企業のガバナンス)
10	10 月 5 日	8 名	監査ノウハウ白熱教室(標的型メール)

	開催月日	参加人数	内容
11	11月2日	6名	情報システム新時代と事例研の取り組み
12	12月5日	11名	年間活動報告

(3) システム監査サービス

月例研究会で監査サービスのパンフレットを配る等で紹介したが、監査依頼の打診はなかった。

(4) システム監査実務・実践セミナー

- ・本年は4日間コースを1回、2日間コースを1回開催し、1996年から実践・実務セミナーは通算36回の開催実績となった。
- ・実務セミナー4日間コースは、2002年から開始し通算19回目となり、公認システム監査人の教育制度の一環として定着してきている。

①第41回（第19回実務セミナー4日間コース）

- 1) 日時：1月21・22日、2月4・5日
- 2) 場所：東京晴海 晴海グランドホテル
- 3) 参加者：受講生8名、講師2名

②第42回（第20回実践セミナー2日間コース）

- 1) 日時：5月19・20日
- 2) 場所：東京晴海 晴海グランドホテル
- 3) 参加者：受講生5名、講師2名

③第43回（第20回実務セミナー4日間コース）

- ・日時：8月25・26日で計画されていたが、受講者が少なかったため催行を取りやめた。

(5) 内部統制セミナー

今年度は開催されなかった。

(6) 事例に学ぶ課題解決セミナー

定期的な開催が定着してきた。リピーターも多いことから、今後は新たな教材作成が課題となる。

①第5回事例に学ぶ課題解決セミナー（半日コース・簡易演習付）

- 1) 日時：2月25日 13:00～17:00
- 2) 場所：晴海グランドホテルで
- 3) 参加者：受講生15名、講師3名

②第6回事例に学ぶ課題解決セミナー（半日コース・簡易演習付）

- 1) 日時：6月2日 13:00～17:00
- 2) 場所：晴海グランドホテルで
- 3) 参加者：受講生16名、講師2名

③第7回事例に学ぶ課題解決セミナー（半日コース・簡易演習付）

- 1) 日時：9月1日 13:00～17:00
- 2) 場所：晴海グランドホテルで
- 3) 参加者：受講生11名、講師2名

④第8回事例に学ぶ課題解決セミナー（半日コース・簡易演習付）

- 1) 日時：12月1日 13:00～17:00
- 2) 場所：晴海グランドホテルで
- 3) 参加者：受講生12名、講師2名

4. 3. 情報セキュリティ監査研究会

>目次

2012年度、当研究会は、当協会の活動の大きな柱である研究活動を魅力あるものにするために、会員各位に、あるいは外部の方にとって関心のある研究テーマを選定するよう心がけた。また、その活動の見える化を図るために、SNSによるオンラインの議論の試行を開始した。

(1) 研究テーマについて

情報セキュリティ監査研究会は、その名のとおり、「情報セキュリティ監査の研究」を主たる活動にしている。しかしながら、近年のセキュリティ事故の多発やその影響の深刻さ、ビッグデータの普及やマイナンバー制度の議論のなかでやかましくなってきた個人情報の問題等に鑑み、監査以前に、これらの深刻なセキュリティ問題（個人情報保護の問題が厳密な意味でセキュリティの問題か、という議論はあるが、とりあえずセキュリティに含めて考える）について、まずは、その問題の所在と本質の把握をすることに取り組んだ。

2012 年度は、スマホやソーシャルメディアの普及やビッグデータの利活用の進展でリスクが増してきた個人情報の問題を研究テーマとした。

2012 年 3 月発行、IPA（独立行政法人 情報処理推進機構）「くらしと経済の基盤としての IT を考える研究会報告書 つながる IT がもたらす豊かなくらしと経済 ～ ビッグデータの価値と信頼 ～」（URL <http://www.ipa.go.jp/about/research/2011bigdata/index.html>）をテキストに、個人情報に係る部分を中心に精査している（現在継続中）。

(2) SNS の利用について

従来の月 1 回の定例研究会（協会事務所で開催）のほかに、SNS によるオンライン討議の試行を開始した。上記の研究テーマについて、定例研究会のみでなく、研究会メンバーにクローズした SNS でも議論している。

(3) 2012 年度研究会月例会合開催実績

情報セキュリティ監査研究会は、2012 年 4 月に主査が交代し、研究会の運営方式等を改めた。以下に主査交代後の研究会開催実績を提示する。

月日	開催会	内容
5 月 24 日	第1回	新体制初会合、本研究会の趣旨等に関する意識合わせを実施。
6 月 25 日	第2回	今後の進め方等について討議。当面、上記テキストを精査することを決定。また、SNS の利用について検討。
7 月 24 日	第3回	各自入手したテキストをもとに今後の精査方法を検討。立ち上がった SNS の運営方法を確認、メンバーに徹底。
8 月 21 日	第4回	テキスト第3章「質的に異なってきた IT 利用への対応」精査。本章のテーマの、ビッグデータ活用に伴う匿名性、仮名性の問題を検討。
9 月 21 日	第5回	テキスト第3章精査のつづき
10 月 22 日	第6回	テキスト第4章「ビッグデータ時代のコンプライアンスリスクと可能性」精査。本章のテーマのビッグデータに関するコンプライアンスリスク(大量データ漏洩、プライバシー侵害、不正表示等)について検討。
11 月 20 日	第7回	テキスト第4章精査のつづき
12 月 26 日	第8回	テキスト第6章「ビッグデータにおける個人的な情報の価値」精査。本章のテーマの、消費者(個人)と生産者(データ利用企業)それぞれの立場でのビッグデータの利活用に係る経済的な価値について検討。

4. 4. システム監査基準研究会

> 目次

(1) 研究項目

SAAJ システム管理基準体系

(2) 活動項目

① IT Audit の ISO 化支援 (ISO/IEC30120)

IT Audit の ISO 化の動きに対して、基準研メンバーにより原案作成を引き続き支援した。また以下の国際会議に参加した。

- 1) 2012年5月：韓国会議（基準研としては都合がつかず欠席したが、清水理事がシステム監査学会から参加）

2) 2012年9月：ダブリン会議（松尾理事が参加）

②各種開発環境・手法における監査のポイント（昨年度中断したテーマ）

ISO 化支援を優先したため中断のまま。

(3)研究会の開催

- ・定例研究会は原則月 1 回。ISO 化に係る検討は随時開催した。

4. 5. 個人情報保護監査研究会

[>目次](#)

個人情報監査研究会（斎藤由紀子主査）は、中堅企業のための「個人情報保護マネジメントシステム実施ハンドブック（以下、PMS実施ハンドブック）」を策定し、PMS 規程及び様式の整備を行った。この PMS 実施ハンドブックをもとに、P マーク取得を計画している事業者 3 社を対象にセミナーを実施した。

(1)2012 年の活動状況

2012 年の当研究会の取り組みは、以下のとおりである。

- ①中堅企業のための「個人情報保護マネジメントシステム実施ハンドブック（以下「PMS 実施ハンドブック）」を策定し、PMS 規程及び様式の整備を行った。
- ②「PMS 実施ハンドブック」商業出版については、出版社との交渉の結果見送ることとなった。
- ③研究会メンバー専用のウェブサイトを構築し、研究会議事録や「PMS 実施ハンドブック」を、掲載して情報の共有を図った。
- ④「PMS 実施ハンドブック」をもとに、P マーク取得を計画している事業者 3 社を対象にセミナーを実施した。

(2)2012 年の定例研究会開催実績

月日	開催回	テーマ
1/18	第1回	・「PMS実施ハンドブック」: 「3301 個人情報取扱規程」「3430 安全管理規程」の策定
2/22	第2回	・プライバシーマーク審査員活動について意見交換 システム管理基準 個人情報保護コントロール追補版 改訂
3/11	第3回	・3/11～12 合宿:伊良湖シーパーク&スパ 「PMS実施ハンドブック」全体読み合わせ
4/18	第4回	・Pマーク取得を計画する事業者向けセミナー資料策定 システム監査基準 個人情報保護のためのコントロール追補版 改訂
5/16	第5回	・「PMS実施ハンドブック」構成見直し 「個人情報取扱規程」を枠内に記載し、補足説明を追加 (5/25 レクリエーション「お台場潮風公園」でBBQ)
6/20	第6回	・合宿のスケジュール打ち合わせ／月例会参加 (6/23～24 東北支部定例会参加(斎藤))
7/10	第7回	・7/10～12 軽井沢合宿 「PMS実施ハンドブック」最終校正 (7/20 Pマーク審査員フォローアップ研修)
8/24	第8回	・「6か月で構築するPMSセミナー」カリキュラムと分担決定 会報 139 号への掲載「個人情報システム監査の提言」(仲)
9/19	第9回	・第 1 回「6か月で構築するPMSセミナー」 京橋プラザ区民会館 プライバシーマークとは、取得スケジュール、方針の公表、体制の整備、 法令・規範の特定、個人情報の洗い出しなど ・定例会 「PMS実施ハンドブック」の見直し
10/17	第 10 回	・第2回「6か月で構築するPMSセミナー」 虎ノ門「商船三井ビル」 個人情報取扱規程、安全管理規程の策定と承認、教育、委託先の監督、開示対象

		個人情報に関する公表、苦情対応、緊急対応
11/21	第 11 回	・第3回「6か月で構築するPMSセミナー」 中央区立産業会館 JIS適合監査、運用監査、施設と設備の安全管理監査、 情報システムセキュリティ監査、是正処置、代表者による見直し
12/19	第 12 回	・第4回「6か月で構築するPMSセミナー」 人形町区民館 Pマーク申請の注意、規程・様式等の整備と提出、 委託先評価の事例、教育テキストの事例

5. 支部

>目次

5. 1. 北海道支部

1. 第11回支部総会実施

- 1) 日時：2011年12月 15日(土) 11:00～12:00
- 2) 内容：2012年活動報告, 2013年活動計画,
2013年役員選出, 2013年研究会・勉強会計画,
2012年会計報告および2013年会計予算について
- 3) 参加者：参加9名、委任6名

2. 定例研究会・勉強会実施

①1月研究会

- 1) 日時：1月19日(木) 18:30～20:30
- 2) テーマ：「サイバー犯罪等の現状と警察等の取組」
ー第168回研究会のビデオ上映とディスカッションー
- 3) 参加者：7名

②2月研究会

- 1) 日時：2月29日(水) 18:30～20:30
- 2) テーマ：「BCMS適合性評価制度の現状とISO化の進展」
ー第167回研究会のビデオ上映とディスカッションー
- 3) 参加者：5名

③3月研究会

- 1) 日時：3月7日(月) 18:30～20:30
- 2) テーマ：「量子コンピュータの概要と研究・開発の状況」
ー第169回研究会のビデオ上映とディスカッションー
- 参加者：5名

④4月研究会

- 1) 日時：4月27日(金) 18:30～20:30
- 2) テーマ：「レイヤ3から考える事業継続」
ー研究発表とディスカッションー
発表者：SAAJ-H 菊地 圭
- 3) 参加者：7名

⑤5月研究会

- 1) 日時：5月28日(月) 18:30～20:30
- 2) テーマ：「システム監査／管理基準のISO化推進状況」
ー第11期総会 記念講演のビデオ上映とディスカッションー
- 3) 参加者：8名

⑥6月研究会

- 1) 日時：6月27日(月) 18:30～20:30
- 2) テーマ：「ソフトウェア品質監査制度
ーソフトウェアの品質説明力強化の取り組みー」
ー第171回研究会のビデオ上映とディスカッションー
- 3) 参加者：4名

⑦8月研究会

- 1) 日時：8月29日(水) 18:30～20:30
- 2) テーマ：「社会保障と税に関わる番号制度について ーマイナンバー法案ー」
ー第172回研究会のビデオ上映とディスカッションー
- 3) 参加者：7名

⑧9 月研究会

- 1) 日時：9月27日(水) 18:30～20:30
- 2) テーマ：「 ①改正不正アクセス禁止法の概要について
② 標的型攻撃メールの特徴と対策」
ー第173回研究会のビデオ上映とディスカッションー
- 3) 参加者：7名

⑨11 月研究会

- 1) 日時：11月27日(月) 18:30～20:30
- 2) テーマ：「事業継続マネジメントの現場・現実とは」
ー第174回研究会のビデオ上映とディスカッションー
- 3) 参加者：8名

3. 広報活動

- ・支部活動について対外的に広報、および支部員勧誘を行った。
- ・他団体との交流：北海道 IT コーディネータ協議会、日本 I T ストラテジスト協会北海道支部、および社団法人 中小企業診断協会北海道支部との講演会共催、勉強会の相互開放
- ・支部員の変動：2011 年度 個人会員 23 名、法人会員 5 名
- ・2012 年度 個人会員 19 名、法人会員 5 名
- ・支部活動への参加：上記以外に非会員 8 名、他支部 3 名参加

4. メーリング・リストによる連絡

- ・支部メーリング・リストにより、支部員間の連絡および情報交換を実施している。

5. ホームページによる情報発信

- ・協会のホームページの支部のコーナーに、北海道支部の情報を記載している。

6. 北海道支部創立 10 周年記念講演会

- 1) 日程：2012年12月15日(土) 13:30-17:30
- 2) 会場：かでる 2. 7 (北海道立道民活動センター) 10階1030会議室
- 3) 後援： 経済産業省北海道経済産業局
特定非営利活動法人 I T コーディネータ協会
- 4) 次第：
 - ・開会挨拶 日本システム監査人協会 会長 沼野 伸生
 - ・基調講演「高収益を支えるインターネット販売のシステムとは？」
株式会社 北の達人コーポレーション 代表取締役 木下 勝寿氏
 - ・特別講演「システム品質から情報品質へ」
札幌大学経営学部教授 八鍬 幸信 氏
 - ・支部報告「コンセンツの向こう側 ～電気はどのように届くのか～」
日本システム監査人協会 北海道支部 宮崎 雅年 氏
 - ・本部報告「システム監査/管理基準のISO化推進状況」
日本システム監査人協会 副会長 松枝 憲司 氏

5. 2. 東北支部

＞目次

2003 年 6 月 28 日に設立した東北支部は、2012 年度の活動として、会員の増加、システム監査の普及、支部の P R など、計画に基づいて以下のとおり活動した。

1. 第 10 回東北支部総会

- 1) 日程：2011年12月18日(土) 15:30～18:40
- 2) 場所：情報産業プラザ「情報化研修室」
- 3) 出席者：会員数 36 名 出席者 11 名(委任状 25 名)
- 4) 議題：

- ・報告事項1 2011年度事業活動
- ・報告事項2 2011年度収支報告
- ・第1号議案 2011年度活動計画
- ・第2号議案 2012年度予算計画
- ・第3号議案 2012年度役員選任

支部長 : 高橋典子

副支部長 : 佐藤賢一、横倉正教

会計 : 佐藤雅英

研究会 : 高橋壮太、小野寺司、小野寺学

広報 : 櫻谷昭慶、舘田あゆみ

監事 : 成田由加里

顧問 : 鈴木実

5) 講演会 : 16:40~18:40

「ITに対応した監査手続き事例～事例で学ぶよくわかるITに対応した監査～」

(日本公認会計士協会IT委員会研究報告第40号)

公認会計士 中村元彦氏 (中村公認会計士事務所)

2. 「ITCみやぎ・SAAJ東北、JISTA東北ワークショップ2012」開催

1) 日程 : 2012年11月24日(土) 9:30~18:30

2) 場所 : 仙台市情報産業プラザ 2(B)

3) 主催 : 日本システム監査人協会東北支部

ITコーディネータ宮城会 (ITCみやぎ)

日本ITストラテジスト協会東北支部 (JISTA東北)

後援 : 東北経済産業局、宮城県、NPO法人ITコーディネータ協会

4) 内容 : 参加者 : 31名

09:30-09:50 「ご挨拶と経済産業省の施策説明」

東北経済産業局 情報・製造産業課 係長 岩本裕司氏

09:50-11:30 「TRIZを使ったビジネス問題の解決法」

NBIコンサルティング株式会社 代表取締役 本田秀行氏

12:30-14:30 「IT活用による経営課題解決手法」

～経営戦略からIT調達・導入プロセスに至るIT経営展開の実務と応用～

ブリッジ・リサーチ&コンサルティング合同会社

代表社員 阿部満氏

14:30-16:30 「SAAJの現況と、システム監査・システム監査人について思うこと」

日本システム監査人協会 会長 沼野伸生氏

16:30-18:30 「知的好奇心がもたらす心豊かな社会の創造にむけて」

～『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ』の取り組み～

有限会社FIELD AND NETWORK 取締役 大草芳江氏

3. 定例研究会及び役員会

(1) 2月例会

1) 日程 : 2012年2月11日(土) 14:00~17:00

2) 会場 : 情報産業プラザ (1)A

3) 内容 : 連絡事項

研究会 今年度の活動テーマ検討

IT-BCPについて検討

(2) 緊急役員会

1) 日程 : 2012年4月14日(土) 14:00~14:30

2) 会場 : コラッセふくしま 302A会議室

3) 内容 : 高橋支部長の東京転勤に伴う業務の代行について

(3) 4月例会

1) 日程 : 2012年4月14日(土) 14:00~14:30

2) 会場：コラッセふくしま 302A会議室

3) 内容：連絡事項

山形合宿について検討

ワークショップについて検討

(4) 6月 山形合宿

1) 日程：2012年6月23日（土） 14:00～17:30

2) 会場：山形県寒河江市 ホテルサンチェリー 他

3) 内容：交流会（そば打ち体験）

連絡事項

研究会 研修1「講演『システム監査法制化研究会の提言』（田淵隆明氏）」

研修2「システム監査法制化についての意見交換」

ワークショップについて

4) 2日目日程：2012年6月24日（日） 9:00～12:00

5) 2日目会場：山形県寒河江市 ホテルサンチェリー

6) 2日目内容：研究会 研修3「スマートフォン・クラウドのセキュリティについての意見交換」

(5) 8月例会

1) 日程：2012年8月25日（土） 14:00～17:00

2) 会場：エル・ソーラ仙台 研修室

3) 内容：連絡事項

ワークショップについて検討

研究会 「スマートフォン&タブレットの業務利用に関するセキュリティガイドライン」 関連の情報共有

(6) 11月役員会

1) 日程：2012年11月22日（金） 18:30～20:30

2) 会場：仙台市内 会議室

3) 議題：支部総会議案書の検討

支部総会案内及び講演の検討

4. 広報宣伝活動

- ・ ITCみやぎ・SAAJ東北・JISTA東北ワークショップにおいて、システム監査の普及および支部活動の宣伝を行った。（沼野会長講演の際にビデオを放映）

5. 3. 北信越支部

＞目次

1. 本年度の目標

- ・ 研究チーム継続によるシステム監査の技術基盤の向上.
 - － システム監査研究会
 - － 情報セキュリティ監査研究会
- ・ 本部、他支部との交流による知識、技術力の向上.
- ・ プレゼンテーション能力の向上.
- ・ インターネットを活用した組織コミュニケーションの向上.

2. 活動報告

(1) 北信越支部年度総会

1) 日程：2012年3月10日（土）

2) 会場：富山市 富山県民会館

3) 内容：

- ・ 年度総会

- ・昨年度活動報告と今年度活動計画について
- ・昨年度会計報告と今年度会計計画について
- ・本部総会報告
 - ・本部通常総会 参加報告
 - ・特別講演「システム監査／管理基準の ISO 化推進状況」の概要報告
- ・報告「情報セキュリティ対策に関するセミナー顛末」 梶川 明美 氏
- ・報告「プロジェクトマネジメントの評価と対策」 森 広志 氏
- ・システム監査研究/情報セキュリティ監査研究意見交換

4) 参加：11 名

(2) 福井県例会

- 1) 日程：2012年6月9日（土）
- 2) 会場：福井市 アオッサ A0SSA
- 3) 内容：
 - ・報告「クラウドコンピューティングサービス導入の事例」
角屋 典一 氏
 - ・報告「IPA 2012 年版 10 大脅威 -変化・増大する脅威-」の概要
宮本 茂明 氏
 - ・システム監査研究/情報セキュリティ監査研究意見交換
○2012 年 11 月中部支部・北信越支部合同合宿（北陸開催）検討
○2013 年度西日本支部合同研究会（北信越支部開催）テーマ検討

4) 参加：8 名

(3) 西日本支部合同研究会 in Fukuoka

- 1) 日程：2012年6月30日（土）
- 2) 会場：福岡県Ruby・コンテンツ産業振興センター
- 3) テーマ：「災害に備えたシステム監査」
 - ・「事業継続計画とシステム監査」
北信越支部 梶川 明美 氏
 - ・「東日本大震災を踏まえた業務継続面の課題～ 金融機関の対応を中心に」
中四国支部 当協会理事 大石 正人 氏
 - ・「BCPの観点を意識したシステム監査項目の検討」
中部支部 副支部長 澤田 裕也氏
 - ・「コンシューマライゼーションとその影響」
近畿支部支部サイトWG 主査 永田淳次氏
 - ・「インフラ系制御システムとシステム監査」
九州支部 福田 啓二氏

4) 参加：2 名(北信越支部)

(4) 長野県例会

- 1) 日程：2012年9月1日（土）
- 2) 会場：長野市生涯学習センターT0iG0
- 3) 内容：
 - ・報告「アジャイル開発プロジェクトにおける監査ポイント」
麻生 秀明 氏
 - ・報告「システムリスク管理の取組について」
長谷部 久夫 氏
 - ・西日本支部合同研究会（6/30 福岡）報告
 - ・「事業継続計画とシステム監査」 梶川 明美 氏
 - ・システム監査研究/情報セキュリティ監査研究意見交換

- ・2012年11月中部支部・北信越支部合同合宿（北陸開催）検討

4) 参加：9名

(5) SAAJ 中部・北信越支部, JISTA(日本 IT ストラテジスト協会) 中部支部合同研究会/石川県例会

1) 日程：2012年11月23日～11月24日

2) 会場：石川県能美市ふるさと交流研修センターさらい

3) 内容：

○合同研究会

テーマ：「ソフトウェア品質監査制度（仮称）を受け、我々はどうすべきか」

- ・IPA 技術本部ソフトウェア・エンジニアリング・センター

統合系研究員 田中和夫様による制度の説明

「ソフトウェアの品質説明強化のためのフレームワーク

～ソフトウェア品質監査制度～」

- ・グループ討議

- ・成果作成，発表

○石川県例会

- ・2012年を振り返って・2013年の計画について

4) 参加：17名(SAAJ中部支部 7名, SAAJ北信越支部 7名, JISTA中部支部 2名, 一般 1名)

3. 支部役員

○支部長：宮本茂明（石川）、副支部長：白井正（新潟）、梶川明美（富山）

○会計：坂井敏之（富山）、情報統括：清水尚志（石川）

○顧問：伊藤祐太郎（富山）、森広志（富山）

○県部会長：角屋典一（福井）、木村武志（石川）、國谷吉英（富山）、
風間一人（新潟）、藤原康弘（長野）

○書記：尾島純子（富山）、監事：高瀬清春（富山）

5. 4. 中部支部

＞目次

1. 活動方針

- ・中部支部内会員の継続的な相互研鑽・交流を図る。（会員の担当事業又は研究などの日頃行っている業務をテーマに課題などを共有化し会員でのディスカッションを通して課題解決への方向性や気付きの場所を提供する。）
- ・中部支部以外の地域や団体との人材交流を積極的に展開していく。

2. 活動体制(敬称略)

○支部長：栗山 孝祐

○副支部長：大友 俊夫、澤田 裕也

○会計担当：安井 秀樹

○会計監査：早川 晃由

○顧問・監事：田中 勝弘

○支部担当役員：山崎(敏)(広報担当)、石井(研究開発担当)、原(国際取引研究・国際交流)、
堤(デジタルコンテンツ担当)、萬代(システム取引法務研究)、
高間(渉外担当)、田中(本部研究会ビデオ管理担当)

3. 活動内容

(1) 例会

① SAAJ 中部支部総会/第1回例会

1) 日時：1/21 14:00～17:00

2) 場所：名古屋市(東桜第1ビル)

参加7名

3) 内容：

- ・中部支部総会（H23 年度活動報告、本年度活動計画、体制など）
- ・昨年度 11 月開催の「西日本支部合同研究会」参加報告
- ・講演：震災関連に関する原子力情報（田中勝弘さん）

②第 2 回例会

- 1) 日時：3/17 14:00-17:00
- 2) 場所：岐阜市生涯学習センター（ハートフルスクエア G） 参加15名
- 3) 内容：
 - ・事務連絡等
 - ・講演 1：スマートコミュニティに関する動向について（若原さん）
 - ・講演 2：岐阜県の次世代エネルギーへの取り組みについて
 講師 岐阜県商工政策課 次世代エネルギー・産業技術推進室
 新エネルギー技術支援担当 課長補佐 浦崎宏幸 様
 - ・見学会：岐阜県次世代エネルギーインフラ『都市モデル』（アクティブ G）

③第 3 回例会

- 1) 日時：5/19 14:00-17:00
- 2) 場所：名古屋市（東桜第 1 ビル） 参加14名
- 3) 内容：
 - ・事務連絡等
 - ・講演
 - 「これからの SAAJ の活動について」 沼野会長
 - 中部支部の活動の活性化について（意見交換）司会 栗山

④第 4 回例会

- 1) 日時：7/21 14:00-17:00
- 2) 場所：名古屋市（東桜第 1 ビル） 参加14名
- 3) 内容：
 - ・事務連絡等
 - ・西日本合同研究会（6 月 30 日）の参加報告
 - ・中部支部 SAAJ・JISTA 合同研究会（11 月）の進め方について
 - ・講演
 スマートコミュニティに関する動向について（その 2） 若原さん

⑤第 5 回例会

- 1) 日時：9/15 13:30～17:00
- 2) 場所：浜松市（浜松市福祉交流センター） 参加12名
- 3) 内容：
 - ・事務連絡等
 - ・講演 1：「ソフトウェア品質監査制度（仮称）」について 栗山支部長
 - ・講演 2：建設業の BCP について 大林組 藤橋さん
 - ・講演 3：基幹システムにおける仮想化技術の導入について（事例報告）
 オーク情報システム 川辺さん

⑥中部支部総会

- 1) 日時：12月16日 17:30～18:30
- 2) 名古屋駅前（むさし） 参加者7名
- 3) 内容：
 - ・2012 年活動実績及び決算（案）報告
 - ・2013 年度活動計画（案）

（2）イベント

- ①SAAJ 中部支部・北信越支部/JISTA 中部支部合同合宿（参加者 17 名）

- 1) 日時：2012年11月23日（金・祝）13:00～11月24日（土）12:00
- 2) 場所：能美市ふるさと交流研修センター さらい（石川県能美市）
石川県能美市石子町ハ147番地1 TEL:0761-57-1212
<http://nomi-serai.jp/index.php>
- 3) 合宿テーマ：「ソフトウェア品質監査制度を受け、我々はどうすべきか」
- 4) スケジュール：
 - [1日目:11月23日] 13:00-17:00
 - 13:00～13:15 受付準備
 - 13:15～13:30 諸連絡
 - 13:30～15:30 IPA/SEC 研究員 田中 和夫 様による制度の説明(質疑/休憩含む)
 - 15:30～17:00 グループによる議論・成果物作成
 - 17:00～ チェックイン等(北信越支部は例会実施とのこと)
IPA 田中さまと個別議論なども可。
 - 18:30～20:30 懇親会
 - [2日目:11月24日] 9:00-12:00
 - 9:00～10:45 グループによる議論・成果物作成
 - 10:45～11:45 成果発表
 - 11:45～12:00 講評等

②西日本支部合同研究会

- 1) 日時：2012年 6月30日(土) 13:00～17:00
- 2) 場所：福岡県Ruby・コンテンツ産業振興センター（福岡市）
- 3) テーマ：『災害に備えたシステム監査』
→ 発表者として、澤田副支部長を中部の発表者として派遣

5. 5. 近畿支部

＞目次

1. 支部体制（敬称略）

(1) 支部役員

- 支部理事（支部長）：林裕正（新任）
- 支部理事（副支部長・会計）：是松徹（新任）
- 支部理事（副支部長）：荒町弘（新任）
- 支部担当役員（コンプライアンスのシステム監査研究会、クラウド研究会）
：雑賀努（留任）
- 支部担当役員（システム監査法制化研究会）：田淵 隆明（留任）
- 支部担当役員（BCP研究会）：大塚一志（新任）
- 支部担当役員（セミナーWG）：広瀬克之（新任）
- 支部担当役員（支部サイトWG）：永田淳次（新任）
- 支部監事：福徳泰司（留任）

(2) 支部参与

- 木村安寿（留任）、安本哲之助（留任）、吉田博一（新任）

(3) サポーター

- 鈴木章彦、吉谷尚雄、松井秀雄、深田哲信、神尾博（5名留任）、
- 金子力造、三橋潤、植垣雅則（3名新任）（順不同）
のサポーター各位の協力を得て、支部活動を行った。

2. 支部総会

- 1) 日時：2012年1月20日（金） 場所：大阪大学中之島センター
- 2) 出席者：27名、委任状49名（会員総数：176名）

3) 議題

- 支部役員の選出について
- 2011 年度事業報告と決算について
- 2012 年度事業計画と予算について

全て異議なく承認された。

3. 支部役員会・サポーター会議

支部活動の報告、今後の活動について、支部役員、及びサポーター各位と討議した。場所は、常翔学園大阪センターである。

- 1) 支部役員会 3月23日 6月22日 9月28日 11月30日
- 2) サポーター会議 7月10日 12月15日

4. 定例研究会

近畿支部会員の方を中心に講師をお願いし、講演会形式で研究会を開催した。開催は、奇数月の第三金曜日の18時半から約2時間を基本とし、今年度は7回開催した。また、年1回開催している、西日本支部の合同研究会には、近畿支部会員より講師を1名派遣した。

(1) 第131回定例研究会 1月20日(金) 出席者：47名

○テーマ：「システム監査とその類似概念」

講師：木村安寿氏(当支部会員 近畿会初代会長)

(2) 第132回定例研究会 3月16日(金) 出席者：46名

○テーマ：「危機管理と情報システム」

講師：西宮市CIO補佐官・西宮市情報センター 吉田稔氏

(3) 第133回定例研究会 5月18日(金) 出席者：38名

○テーマ：「マイナンバー法案によって変わる事業者における個人情報管理」

講師：弁護士法人第一法律事務所 福本洋一氏

(4) 第134回定例研究会 7月20日(金) 出席者：36名

○テーマ：「FISC『システム監査指針』(第3版)改訂に向けたヒアリング結果について」

講師：FISC 監査安全部 主任研究員 市川千尋氏

(5) 第135回定例研究会 9月21日(金) 出席者：43名

○テーマ：「地方自治体の基幹システム再構築におけるSLAについて」

講師：近畿大学 経営学部 津田博氏

(6) 第136回定例研究 11月16日(金) 出席者：32名

○テーマ：「“JIS Q 20000-1の改正のポイント”と“ITSMSの本当の効果”」

講師：株式会社マネジメント総研 代表取締役 小山俊一氏

(7) 第137回定例研究会(ISACA 大阪支部との合同講演会) 12月15日(土)

出席者：72名

○テーマ：「最新サイバー攻撃の脅威とセキュリティ対策の考え方」

講師：富士通株式会社 クラウドCERT室長 奥原雅之氏

(8) 西日本支部合同研究会

(中部支部・北信越支部・近畿支部・中四国支部・九州支部)

- 1) 日時：6月30日(土) 13:00~17:00
- 2) 場所：福岡県Ruby・コンテンツ産業振興センター
- 3) テーマ：「災害に備えたシステム監査」

近畿支部からは、永田淳次氏が「コンシューマライゼーションとその影響」について発表した。

5. システム監査勉強会

本部の月例研究会のDVDを視聴する形式の勉強であり、偶数月の第三土曜日に開催した。

(1) 第30回 2月18日(土) 出席者：49名

2011 年 10 月度月例会、及び 11 月度月例会の DVD を視聴した。

(2) 第 3 1 回 4 月 21 日 (土) 出席者 : 3 6 名

2011 年 12 月度、及び 11 期通常総会特別講演の DVD を視聴した。

(3) 第 3 2 回 6 月 16 日 (土) 出席者 : 4 2 名

2012 年度 5 月度月例会の DVD を視聴した。また、近畿支部の「システム監査法制化研究会」より成果報告を実施した。

(4) 第 3 3 回 8 月 18 日 (土) 出席者 : 3 5 名

2012 年 6 月度月例会、及び 7 月度月例会の DVD を視聴した。

(5) 第 3 4 回 10 月 20 日 (土) 出席者 : 4 0 名

2012 年 8 月度月例会、及び 9 月度月例会の DVD を視聴した。

6. セミナー活動

「システム監査を学ぶ 3 つのコース」として以下のセミナーを企画したが、「実践セミナー」は催行最少人数に達せず、開催中止とした。

(1) システム監査体験セミナー

昨年と同じ教材で、「入門セミナー」を「体験セミナー」に名称変更し 1 日コースとして開催した。

1) 日時 : 6 月 16 日 (土) 10 : 00 ~ 17 : 00 受講者 : 1 6 名

2) 場所 : 常翔学園大阪センター

(2) システム監査実践セミナー

昨年の内容に BCP を加えた内容で、9 月 22 日 (土)、23 日 (日) の開催を企画したが、申込みが最少遂行人数 (8 名) に達しなかったため中止した。

(3) 事例に学ぶシステム監査の基本と応用

今年度の新たな試みとして、会員が持つ実際の監査経験を 4 つのテーマに分け、それぞれ 4 0 分程度で講演を実施した。

1) 日時 : 11 月 17 日 (土) 13 : 00 ~ 17 : 00 参加者 : 1 4 名

2) 場所 : 常翔学園大阪センター

7. 研究会・WG 活動

次の 4 研究会、2 つの WG を設置し、支部会員により活発な研究会活動やセミナー等の準備作業を行った。

(1) コンプライアンスのシステム監査研究会

システム監査学会と共同プロジェクトとして昨年度より継続して実施した。今年度はコンプライアンスの「システム管理基準」、「システム監査基準」を検討した。

1) 主査 : 雑賀努氏 副主査 : 吉田博一氏 研究会参加者 : 1 0 名

2) 開催日 : 1 月 27 日、2 月 16 日、3 月 15 日、4 月 16 日、5 月 9 日、5 月 21 日、7 月 3 日
7 月 31 日、10 月 26 日、11 月 19 日、12 月 7 日

なお、6 月 8 日 (金) にシステム監査学会の研究大会にて中間報告を実施した。

(2) システム監査法制化研究会

諸外国でのシステム監査の法制化の実情、及び、パッケージ・ソフトウェアへの製造物責任法の適用の有無等の調査を行った。

1) 主査 : 田淵隆明氏 研究会参加者 : 6 名

2) 開催日 : 4 月 13 日、5 月 11 日、6 月 8 日、7 月 13 日、9 月 14 日、10 月 19 日、
11 月 9 日、12 月 14 日

なお、前述の通り、6 月 16 日に近畿支部にて成果報告を行った。また、同内容を 6 月 23 日に東北支部研修会で発表した。

(3) BCP 研究会

BCP 研究会では協力企業である T 社との共同研究ということで T 社の IT-BCP 策定支援を実施し、2012 年 3 月をもって支援活動は終了した。その後は新たなメンバーを編成し、BC

P研究会活動の振り返りを行い、次なる研究テーマを設定し活動を再開した。改めて策定したテーマは以下の3点である。テーマ①を重点テーマと位置付け、マンパワーと負荷を検討した上で、具体的なアクションプランを立てることとした。

1) アクションプラン

- ・ 中小企業（零細企業）のBCP策定・災害対策
- ・ BCP対策の外部評価（監査）に向けた取組み
- ・ BCP策定を容易にする情報システムとは

2) 主査：大塚一志氏 副主査：荒町弘氏 研究会参加者：19名

3) 開催日：1月27日、3月2日、4月20日、6月8日、7月27日、9月14日、

10月19日、11月29日、12月12日

(4)クラウドコンピューティングのシステム監査研究会

システム監査学会と共同プロジェクトとして昨年度より継続して実施した。今年度はクラウドの「システム管理基準」を検討した。

1) 主査：松田貴典氏 副主査：雑賀努氏 深瀬仁氏（システム監査学会）

2) 研究会参加者：24名

3) 開催日：1月27日、2月17日、3月14日、4月19日、5月12日、7月20日、12月21日、

なお、6月8日（金）にシステム監査学会の研究大会にて中間報告を実施した。

(5)セミナーWG

セミナーWGでは、近畿支部主催のセミナーの企画と開催のため活動を行った。

1) 主査：広瀬克之氏 WG参加者：8名

2) 開催日：2月8日、3月14日、4月11日、5月9日、6月9日、7月11日、

8月8日、9月12日、10月10日、11月14日、12月22日、

(6)支部サイトWG

支部サイトWGでは、近畿支部の情報交換、情報発信及びWG・研究会の活動支援を行った。

①支部会員紹介記事の掲載

②研究論文・報告書・成果物のサイトへの掲載

③メールマガジンの発刊、定期的発行

④メール・メーリングリストの運用・案内文の検討

⑤サイトに運用ルールガイドラインの整備（別紙参照）

⑥サイト運用の強化（IP偽装メール対応、コンテンツ管理ソフトの最新版の維持、バックアップの強化）

1) 主査：永田淳次氏 メンバー：吉田氏、吉谷氏、林氏、是松氏、金子氏、神尾氏、下田氏

2) 開催日：2月23日、5月8日、7月5日、9月5日、11月16日

5. 6. 中四国支部

>目次

1. 活動概要

- ・ 月例会の実施。（計10回実施）
- ・ 西日本支部合同研究会への参加。
- ・ 支部メーリング・リストによる連絡、情報交換等。

2. 活動実績

月例研究会（東京）のビデオの視聴及び情報交換を中心に月例会を実施した。

(1)1月度月例会 1月30日（月）18:30-20:30 出席7名

「BCMS 適合性評価制度の現況とISO化の進展」（ビデオ視聴及び情報交換）

(2)2月度月例会 2月27日（月）18:30-20:30 出席5名

「サイバー犯罪等の現状と警察の取組」（ビデオ視聴及び情報交換）

(3)3月度月例会 3月26日（月）18:30-20:30 出席5名

「量子コンピュータの概要と研究・開発の状況」(ビデオ視聴及び情報交換)

(4)4 月度月例会 4 月 23 日(月) 18:30-20:30 出席 8 名

「システム監査・管理基準の ISO 化進捗状況」(ビデオ視聴及び情報交換)

(5)6 月度月例会 6 月 25 日(月) 18:30-20:30 出席 7 名

「ソフトウェア品質監査制度(仮称)～ソフトウェアの品質説明力強化の取り組み～」
(ビデオ視聴及び情報交換)

(6)7 月度月例会 7 月 23 日(月) 18:30-20:30 出席 8 名

「社会保障と税に関わる番号制度について～マイナンバー法案～」(ビデオ視聴及び情報交換)

(7)8 月度月例会 8 月 27 日(月) 18:30-20:30 出席 9 名

「改正不正アクセス禁止法の概要について」

「標的型攻撃メールの特徴と対策」(ビデオ視聴及び情報交換)

(8)9 月度月例会 9 月 24 日(月) 18:30-20:30 出席 9 名

「事業継続マネジメントの現場・現実とは」(ビデオ視聴及び情報交換)

(9)10 月度月例会 10 月 22 日(月) 18:30-20:30 出席 6 名

「新しい時代のシステム監査を考える」(ビデオ視聴及び情報交換)

(10)11 月度月例会 11 月 26 日(月) 18:30-20:30 出席 6 名

「コーポレート・ガバナンスと IT ガバナンス～監査役の視点から～」
(ビデオ視聴及び情報交換)

(11)西日本支部合同研究会

1) 日時 6 月 30 日(土) 13:00-17:00

2) 場所 福岡県 Ruby・コンテンツ産業振興センター セミナールーム

3) テーマ 「災害に備えたシステム監査」

3. 支部役員

○支部長 : 溝下 博

○副支部長 : 福田陽一、廣末 浩之、田川 誠

○会計 : 福原博明

○監事 : 本多美和子

○顧問 : 大谷完次

5. 7. 九州支部

[>目次](#)

1. 支部の状況と役員体制

1) 支部会員 35 名(2012 年 11 月末日時点。昨年比 5 名減)

2) 役員体制

○支部長 : 溝統明

○副支部長 : 船津 宏 荒添美穂

○会計 : 居倉圭司

○監査 : 松嶋 敦

○事務局 : 福田啓二

○地区担当 : 大分:梶屋博史、長崎:平山克己、鹿児島:山下博美、熊本:中尾克代

2. 活動概要

(1)月例会の開催

通例どおり、月 1 回の月例会を開催した。(福岡市)

システム監査学会九州地区研究会との連携を継続した。

なお、4・11 月是他イベントが多かった為に休会

(2)西日本支部合同研究会を九州支部主催で開催(6/30)

(3)支部セミナーを企画し九州支部主催で開催

- ・『システム監査技術者試験』合格をめざす受験準備講座（2/11）
- ・システム監査体験セミナー（2/18）

（４）他団体との合同イベントとして、今年で９回目にあたる

大分合同セミナーを特定非営利活動法人 大分 I T 経営推進センター
 社団法人中小企業診断協会 大分県支部、I T C 大分、
 システム監査学会との共催で合同セミナー開催した（11/10）

（５）他支部、関連他団体との連携、情報発信の活発化

システム監査学会（JSSA）、ISACA 福岡支部、
 福岡 IT コーディネータ推進協議会、
 日本 IT ストラテジスト協会（JISTA）九州支部、
 で開催されるセミナーを後援した。

３．月例会

毎月、東京での月例研究会ビデオ視聴および支部会員の研究・検討・報告事項の発表を中心に行った。以下は各月の主要事項。（各回の主要発表事項）

（１）第 2 5 1 回 １月度月例会 １月 28 日（土）15:00-17:00（参加：8 名）

内容：・社会システムと電子政府・電子自治体への問題提起（中溝氏）
 ・省エネルギー普及指導員研修（船津氏）
 ・情報処理学会誌より「クラウド・セキュリティ」（中溝氏）

（２）第 2 5 2 回 ２月度月例会 ２月 25 日（土）13:00-17:00（参加：8 名）

内容：・ビデオ視聴 第 169 回月例研究会
 テーマ『量子コンピュータの概要と研究・開発の状況』
 ・“『システム監査技術者試験』受験準備講座”の実績報告
 ・“システム監査体験セミナー”の実績報告
 ・I S A C A 福岡支部発足について

（３）第 2 5 3 回 ３月度月例会 ３月 24 日（土）13:00-17:00（参加：10 名）

内容：・西日本支部合同研究会（6/30）の準備検討
 ・ISACA 福岡支部設立記念行事（4/21）の案内（諸藤氏）
 ・クラウドビジネスの現状と今後（中溝氏）

（４）第 2 5 4 回 ５月度月例会 ５月 19 日（土）13:00-17:00（参加：10 名）

内容：・ビデオ視聴 第 11 期通常総会
 特別講演会『システム監査／管理基準の ISO 化推進状況』
 ・E U データ保護規則について（船津氏）

（５）第 2 5 5 回 ６月度月例会 ６月 23 日（土）13:00-17:00（参加：7 名）

内容：・ビデオ視聴 第 171 回月例研究会
 テーマ『ソフトウェア品質監査制度（仮称）
 ～ソフトウェアの品質説明力強化の取り組み～』
 ・とんでもない障害が発生しています（船津氏）
 ・システム監査学会報告（中溝氏）
 ・資料配布 第 170 回月例研究会
 『企業 I T 動向調査 2 0 1 2 （1 1 年度調査）』

（６）第 2 5 6 回 ７月度月例会 ７月 23 日（土）13:00-17:00（参加：10 名）

内容：・ビデオ視聴 第 172 回月例研究会
 テーマ『社会保障と税の一体改革について』
 ・クラウドとシステム監査（中溝氏）
 ・情報ガバナンスプログラム成功への道（中溝氏）

（７）第 2 5 7 回 ８月度月例会 ９月 1 日（土）13:00-17:00（参加：9 名）

内容：・ビデオ視聴 第 173 回月例研究会

テーマ『改正不正アクセス禁止法の概要について』

『標的型攻撃メールの特徴と対策』

- ・ 合同勉強会(大分)への参加検討
- ・ 認知心理学を監査業務に役立てる(中溝氏)
- ・ 「ITC Conference 2012 ～お客様価値の創造～」参加報告(中溝氏)

(8)第258回 9月度月例会 9月29日(土) 13:00-17:00 (参加:9名)

内容:・ビデオ視聴 第174回月例研究会

テーマ『地業継続マネジメントの現場・現実とは』

- ・ 体験セミナー開催 検討
- ・ 西日本支部合同研究会 開催報告書 確認

(9)第259回 10月度月例会 10月27日(土)13:00-17:00 (参加:11名)

内容:・ビデオ視聴 第175回月例研究会

テーマ『新しい時代のシステム監査を考える』

- ・ 検査院指摘の「システム開発中断で特許庁 54 億円支出無駄」
- ・ 体験セミナー開催 検討

(10)第260回 平成23年度九州支部総会(兼、12月度月例会)

1) 日時:2012年12月8日(土) 13:00~17:00 (参加:11名)

2) 会場:福岡市西市民センター第一会議室

3) 内容:総会議事(九州支部)

- ・ 2012 年度事業報告
- ・ 2013 年度事業計画

4) 月例会

- ・ ビデオ視聴 第176回月例研究会

テーマ『コーポレート・ガバナンスとITガバナンス ～監査役の視点から～』

- ・ 九州支部開催イベントの総括
- ・ 監査スキル向上について(鶴岡氏)
- ・ 「IT経営カンファレンス 2013 in 福岡」(溝田氏)

4. 主催、共催イベント

(1)2012年度 SAAJ西日本支部研究会

1) 日時:2012年6月30日(土) 13時~17時

2) 会場:福岡県 Ruby・コンテンツ産業振興センター セミナールーム

3) 主催:日本システム監査人協会 九州支部

後援:九州経済産業局

システム監査学会

ISACA 福岡支部

特定非営利活動法人 ITコーディネータ協会

福岡ITコーディネータ推進協議会

日本ITストラテジスト協会

4) 内容:テーマ『災害に備えたシステム監査』

講師:北信越支部 梶川 明美 氏

中四国支部 協会理事 大石 正人 氏

中部支部 副支部長 澤田 裕也 氏

近畿支部 支部サイトWG 主査 永田 淳次 氏

九州支部 福田 啓二 氏

5) 参加:55名 日本システム監査人協会 31名

(九州支部 13名、中四国支部 5名、近畿支部 4名、
中部支部 4名、北信越支部 2名、他支部 3名)

(2)2012 年度 合同セミナー

- 1) 日時：2012年11月10日（土）13：30～17：30
- 2) 会場：（第一部）別府国際コンベンションセンター ビーコンプラザ
（第二部）フェスティバル実行委員会スタッフの案内で会場見学
- 3) 主催：日本システム監査人協会 九州支部
社団法人中小企業診断協会 大分県支部
特定非営利活動法人 大分 I T 経営推進センター
I T C 大分
システム監査学会
- 4) 内容：【第一部】「別府現代芸術フェスティバル 2 0 1 2 『混浴温泉世界』」
～ アートによる湯の町別府の場所力（ばしょりょく）発見、
及び イベント運営における I C T 活用状況～
講師：総合プロデューサー 山出 淳也 氏
- 5) 参加：S A A J 会員4名、J S S A 会員1名

(3)九州支部 システム監査体験セミナー

- 1) 日時：2012年2月18日（土）9時30分～17時00分
- 2) 会場：西南学院大学 西南コミュニティセンター
- 3) 主催：日本システム監査人協会 九州支部
共催：システム監査学会
福岡 I T コーディネータ推進協議会
後援：特定非営利活動法人 I T コーディネータ協会
- 4) 内容：システム監査体験講義（座学）、3～4名のグループでシステム監査プロセスの一部を体験いただくグループワーキング（演習）、監査結果の発表と講評。
講師：九州支部のシステム監査等経験者
- 5) 参加：14名

(4)九州支部 『システム監査技術者試験』合格をめざす受験準備講座

- 1) 日時：2012年2月11日（祝）13時30分～16時30分
- 2) 会場：福岡県 Ruby・コンテンツ産業振興センター 会議室 5
- 3) 主催：日本システム監査人協会 九州支部
- 4) 内容：システム監査技術者試験の勉強法について講義します。
簡単な演習問題を解きながら、解答解説を通じて解答テクニックを説明
－ 講義 13：30～15：30（2時間）
・午後Ⅰ記述試験のコツを習得する
・午後Ⅱ記述試験のコツを習得する
－ 個別相談（質疑） 15：30～16：30（1時間）
講師：大熊 伸幸氏（日本 IT ストラテジスト協会(JISTA)九州支部）
- 5) 参加：7名

5. メーリング・リスト

2012 年 12 月 24 日より協会運営のメーリング・リストに移行しました。

1. 2012年度 特定非営利活動に係る事業会計 財産目録

2012年12月31日現在

特定非営利活動法人日本システム監査人協会

第11期

(単位:円)

科目・摘要	金額			
I 資産の部				
1 流動資産				
現金・預金				
・本部現金預金				
三井住友銀行（日本橋東）	1,163,066			
みずほ銀行（八重洲口）	3,156,932			
三菱東京UFJ銀行（日本橋）	225,786			
楽天銀行	1,502,138			
郵便振替口座	2,822,030			
郵便普通預金	1,000			
小口現金	198,440			
・支部現金預金				
北海道支部	213,876			
東北支部	87,082			
北信越支部	234,013			
中部支部	529,805			
近畿支部	805,006			
中・四国支部	247,913			
九州支部	149,882	11,336,969		
未収入金（延べ38名分の会費）		380,000		
流動資産合計			11,716,969	
2 固定資産				
器具備品				
シュレッダー1台	14,281			
パソコン1台	3,971			
プロジェクター 4台	33,826			
サーバー1台	1	52,079		
ソフトウェア				
Java版会員管理システム2012	1,032,500	1,032,500		
敷金（共同ビル）		966,336		
固定資産合計			2,050,915	
資産合計				13,767,884
II 負債の部				
1 流動負債				
預り金（報酬等に係る源泉徴収税）		106,970		
仮受金		10,000		
前受金（翌年以降分の会費）		120,000		
流動負債合計			236,970	
負債合計				236,970
III 差引 期末正味財産合計額				13,530,914

2. 2012年度 特定非営利活動に係る事業会計 貸借対照表

2012年12月31日現在

特定非営利活動法人日本システム監査人協会

第11期

(単位：円)

資産の部			負債の部		
科 目	金 額		科 目	金 額	
流動資産			流動負債		
現金・預金	11,336,969		預り金	106,970	
未収入金	380,000		仮受金	10,000	
			前受金	120,000	
流動資産合計		11,716,969	流動負債合計		236,970
			正味財産の部		
固定資産					
器具備品	52,079		前期繰越正味財産	9,901,760	
ソフトウェア	1,032,500		当期正味財産増加額	3,629,154	
敷 金	966,336				
固定資産合計		2,050,915	正味財産合計		13,530,914
資産合計		13,767,884	負債 及び 正味財産合計		13,767,884

計算書類に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却

器具備品は定率法、ソフトウェアは定額法により、帳簿価額を直接減額している。

(2) 資金の範囲

資金の範囲は、現金と流動性預金としている。前期末及び当期末残高は、下記2に記載した通りである。

(3) 消費税に関する会計処理方法

税込方式によっている。なお、控除仕入税額は、消費税法第60条第4項により特定収入に係る課税仕入れ等の税額のみを控除している。

2. 次期繰越収支差額の内容

科 目	前期繰越残高	当期末残高
現金・預金	6,276,772	11,336,969
合計	6,276,772	11,336,969
固定性預金	0	0
合計	0	0
次期繰越収支差額	6,276,772	11,336,969

3. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次の通りである。

科 目	取得価格	減価償却累計額	当期末残高
器具備品	2,567,365	2,515,286	52,079
ソフトウェア	1,050,000	17,500	1,032,500
合 計	3,617,365	2,532,786	1,084,579

3. 2012年度 特定非営利活動に係る事業会計 収支計算書

>目次

2012年1月1日から2012年12月31日まで

特定非営利活動法人日本システム監査人協会

第11期

(単位:円)

科 目	予 算 (細目)	実 績 (細目)	差引 (実績-予算)
I 収入の部			
1 入会金・会費収入	8,600,000	8,099,000	△ 501,000
入会金収入	100,000	104,000	4,000
会費収入	8,500,000	7,995,000	△ 505,000
2 事業収入	11,528,000	11,068,782	△ 459,218
普及・啓発、広報事業	0	0	0
研究・研修事業	7,486,000	3,925,632	△ 3,560,368
認定事業	4,040,000	7,143,150	3,103,150
3 寄付金収入	0	410,100	410,100
4 その他収入	1,512,000	1,380,288	△ 131,712
支部収入	2,627,000	2,375,927	△ 251,073
(本部助成金)	△ 1,115,000	△ 1,071,000	44,000
印税収入	0	70,434	70,434
雑収入	0	4,907	4,907
当期収入合計 (A)	21,638,000	20,958,150	△ 679,850
II 支出の部			
1 事業費	11,546,000	7,708,627	△ 3,837,373
普及・啓発、広報事業費	3,270,000	2,096,190	△ 1,173,810
研究・研修事業費	7,096,000	3,952,573	△ 3,143,427
認定事業費	1,180,000	1,659,864	479,864
2 管理費	8,982,000	8,583,752	△ 398,248
通信費	68,000	85,449	17,449
旅費交通費	604,000	579,680	△ 24,320
消耗品費	165,000	107,234	△ 57,766
会議費	335,000	318,259	△ 16,741
事務局手当	2,400,000	2,539,466	139,466
事務所運営費	1,870,000	1,758,401	△ 111,599
ハード・ソフト費用	254,000	332,988	78,988
支部経費・運営費	2,936,000	2,510,994	△ 425,006
雑費	350,000	351,281	1,281
3 事務所工事費	800,000	768,390	△ 31,610
4 減価償却費	300,000	265,327	△ 34,673
5 租税公課	0	2,900	2,900
当期支出合計 (B)	21,628,000	17,328,996	△ 4,299,004
当期収支差額 (A) - (B)	10,000	3,629,154	3,619,154
前期繰越収支差額 (C)	9,901,760	9,901,760	0
当期繰越収支差額 (A)-	9,911,760	13,530,914	3,619,154

*会費収入には、未収入金380,000円を含む。

*支部収入2,375,927円のうち1,071,000円は本部助成金である。

監査報告書

1. 特定非営利活動法人日本システム監査人協会における平成24年度（平成24年1月1日から平成24年12月31日）の事業予定・実績表、貸借対照表並びに財産目録は、関係諸帳簿、その他の関係書類を監査したところ、いずれも適正であり、また、公益法人会計基準に準じて正確に作成されたものであることを認めます。
2. 業務遂行に関しては、不正行為または法令もしくは定款に違反する事実
は認められません。

平成25年1月26日

特定非営利活動法人日本システム監査人協会

監事 富山伸夫 

監事 金子長男 

1. 本部・計画

1. 1. 全般

現役員体制での2年目となる本年度の協会運営の方向性は、前年度に引続き以下の3点とする。

(1) システム監査の普及、促進活動の一層の推進

(2) 会員サービスの一層の充実

(3) 協会財政の一層の健全化

昨年度は新たな役員体制の下、上記3点を協会運営の方向性とし、精力的な協会活動を展開した。特に、これらの実現には会員増強（会勢盛上げ）が欠かせないとして、会員増強PTを立上げてこれに取組み、一定の成果を上げたことは2012年度事業報告の通りである。

会員増強PTが実施した主な施策は、会員紹介運動の展開、会費未納者への状況確認のための理事による電話連絡の実施、会報の充実化（協会活動情報の会報による広報の徹底、システム監査人のコラム“めだか”等への投稿の勧奨推進）、月例研究会の講師・テーマの一層の充実化、システム監査ワークショップ支援サービス（企業へのシステム監査導入の草の根支援活動）の検討、学生会員制度の検討、そしてシステム監査基準ISO化の動向の会員への広報などであった。

これら各施策は、協会運営上継続的に実施すべきもの、また、検討が道半ばであり引続き検討を進め具体的な成果に結びつけるべきものばかりである。

従って、現役員体制での2年目となる本年度も協会運営の方向性は、前年度と同様とする。

社会に目を転じると、引続き、事件、事故が発生すると第三者による評価、点検を求めることが一般化し、システム監査もその一つである“第三者評価”の活用は社会に定着している。

このような状況下、システム監査／システム監査人の果たすべき役割は情報社会の一層の進展と相俟って益々大きくなり、当協会は引続き先頭に立ってその役割を果たしていかなければならない。

今年度は、昨年度の会員増強（会勢盛上げ）の各活動を引継ぐと共に、システム監査に対する社会の期待、ニーズに呼応し、システム監査の普及、促進により直結する施策展開（システム監査のノウハウの整理・公表など）にも一層力を注いでいく。

(1) システム監査の普及、促進活動の一層の推進

各研究会活動を一層活性化し、システム監査実践ノウハウの蓄積・整理、セミナー、講演会等の開催、公認システム監査人の認定などを通し、システム監査の普及・促進に引続き努める。

(2) 会員サービスの一層の充実

会員へ、各研究会の活動情報、成果を積極的に提供していくと共に、協会が主催する研究会・セミナーへの割引参加の優遇措置、協会出版図書の割引購入の優遇措置、システム監査人推薦制度運用の一層の活性化などを進める。

(3) 協会財政の一層の健全化

会員サービスの向上を図りつつ経費の一層の節減に努め、また新規会員増・退会会員減に注力し財政の一層の安定化を図る。また、期中を通した財政状況の把握、管理に引続き努める。

(4) 会員増強プロジェクト

昨年、一定の成果を上げることができたが、会員増強は当協会にとって永遠の課題といっても過言ではない。昨年は協会財政基盤の安定に主目的を置いて活動を行ってきたが、会員増強の真の目的は協会活動の活性化である。協会活動が活性化し、会員が協会活動にメリットを感じれば、自ずと会員数は増えていくはずである。

本年も会員増強プロジェクトを継続し、昨年から継続している施策を着実に実行に移すとともに、会員の皆さんからのご意見も採り入れながら、協会活動の活性化につながるような活動を計画し実施していく。

(5) 事務局

事務局（仲事務局長、斎藤（由）理事）は、会計（安部主査、藤澤理事）とともに経費削減に

取り組んでいく。また、「会員管理システム」及びホームページの改善等を行う。寄附のお願いを行う。事務処理改善テーマとして、事務局サイトに置く事務処理資料の充実を行っていく。

2. 委員会・計画

>目次

2. 1. 認定委員会

(1) 公認システム監査人等認定委員会の計画

① 定例の認定作業や更新作業

1月から2月にかけての資格更新審査、認定証の発行および春秋の認定申請受付、審査、面接、認定証の発行は、例年通り実施する。

② 継続教育セミナーの実施

土曜日午後に実施している継続教育セミナーは、6月と12月に実施すべく、計画している。6月分については、フィッシング対策についての企画が進んでいる。

2. 2. CSA利用推進

(1) 今後の活動計画

- ① CSAのプレゼンスと社会的な評価や価値を高め、具体的な実効を挙げることを目標とする。特にCSA資格更新を積極的に行ってもらえるようにCSA資格の取得効果を実感していただく活動にしていきたい。そのためにCSAに関わる課題を取りまとめ、CSA利用推進G以外の協力も得て、SAAJ全体の活動に広げていく。
- ② CSAフォーラムはフェイスTOフェイスの場として引き続き隔月開催を目標に推進する。その活動により、CSAフォーラムの活性化と事前登録者の積極的な参加を促す。合わせて事前登録をしていないCSA（ASA含む）の事前登録の再募集を行い、事前登録者を増やす。
- ③ CSA利用推進に対する支援メンバーを募集して、CSA利用推進Gの会合を隔月開催する。その中でCSA認定カード、CSAパンフレット、入札条件への資格記載の依頼等に対する普及フォローを強化する。さらにCSA全体フォーラム（全体会議）の実現も検討する。
- ④ 協会ホームページにおけるCSA関連サイトの内容充実により、CSAフォーラムへの参加有無に関わらず相互研鑽と情報共有の場の充実を図る。
- ⑤ CSAを広く社会に知ってもらうためにCSAに関係した実務書の出版も複数の筆者を募りながら検討を開始する。
- ⑥ 会報、HP、メーリング・リスト、月例会等との連携については、会報、HP&メーリング・リスト、月例会等の担当理事、CSA認定委員会、協会事務局等と協力しながら進めていく。

(2) 今後の課題

- ① 上記のような活動計画を毎年掲げてはいるが、担当理事らの時間確保ができず具体的な活動へのつながりが十分ではない。その点を反省して、CSA利用推進Gの推進体制を強化（スタッフ人数増）して、担当理事&スタッフにより、年間目標、月次計画、役割分担等を決めて、具体的な活動が推進できるように工夫したい。
 - ・ CSA利用推進の活動をSAAJ会員に幅広く知ってもらうこと、世の中に対してCSAのプレゼンスを高める実効は、まだまだ推進途上である。そのためにSAAJ外部に対する活動を見直して活性化する施策を展開する。より多くのCSAの方々との連携・協力体制作りを進めたい。
 - ・ 20周年プロジェクトでの検討課題として、引き続き、「システム監査人の役割、要求されるスキルなどの見解のまとめ」について、“CSAフォーラム”における共通テーマとしての取り組みを進める。期待されるシステム監査人としての役割、スキルを整理し、より高度なシステム監査人について進むべき人材像の明確化と具体的な育成策の提示を目指していく。

(3) 第12期 役員名簿

○ 主査：力利則

2. 3 教育研修委員会

[>目次](#)

前年度と同様、下記計画に沿って特別認定講習実施機関（2社）に委託し次の特別認定講習コースを実施する。

(1) 論文・プレゼンテーションコース（1日コース）

- 1) 実施回数予定： 東京2回、大阪2回 計4回
- 2) 実施時期予定： 1月～6月 2回、7月～12月 2回
- 3) 受講者予定： 5名

(2) システム監査に関する知識コース（2日コース）

- 1) 実施回数予定： 東京3回、大阪2回 計5回
- 2) 実施時期予定： 1月～6月 3回、7月～12月 2回
- 3) 受講者予定： 8名

(3) 情報システムに関する知識コース（2日コース）

- 1) 実施回数予定： 東京1回、大阪1回 計2回
- 2) 実施時期予定： 1月～6月 1回、7月～12月 1回
- 3) 受講者予定： 2名

(4) 講習コース運営管理

- ・講習実施機関に対して、講習後の試験採点結果が協会の評価で再提出のない様に採点を行うことを指導する。
- ・CSA増加に資するため、講習実施機関と情報交換しつつ受講者増への取り組みを継続する。
- ・過去実施分の保管ファイルの整理とデジタル化を推進する。

3. 部会・計画

[>目次](#)

3. 1. 会報

(1) 活動計画

システム監査の普及促進を主テーマに、会報が会員やシステム監査人の情報交換を通じてエネルギー源の場になるよう取り組んでいきたい。

- ①システム監査の普及促進に向けた会報として、情報発信ができるようにします。
- ②システム監査実務に有益な情報源を目指して活動報告と論文募集を継続します。
- ③会員やシステム監査人が気軽に記事を投稿できるように運用します。
- ④電子化した会報を電子書籍として発行します。
- ⑤優れた投稿記事に会報アワードを授与します。

(2) 特集計画

システム監査の普及促進を通じた経営の品質向上や業務の効率向上等をテーマに記事を集めていきたい。

- ①特集テーマは、システム監査に関する論文、法人部会、基準研究会、月例研究会、事例研究会、情報セキュリティ監査研究会、個人情報保護監査研究会、支部活動の報告です。
- ②システム監査の普及促進への特集テーマとして、課題解決セミナー、WWS（ワークショップ支援）、会員増強PT、CSA利用推進、ISO化支援などもとりあげます。

(3) 会報の編集、発行回数

会報投稿原稿は、標準フォーマットを採用し、電子会報の編集となるように運用します。

- ①会報の発行は、月次発行を維持し、会員やシステム監査人が情報交換できる場を提供します。
- ②会報は、PDF ファイルダウンロードとし、スマホ閲覧を含め電子版の発行を充実します。

3. 2. 法人部会

>目次

(1) 会員の拡大、会員増強プロジェクトとの連携

- ・2012 年は新規入会が 2 社あったが退会もあり、法人正会員が若干減少した。2012 年は会員増強プロジェクトと連携し、会員増強施策の検討を行ったが、2013 年はこれら施策の実現を図り、法人正会員の増強に努める。具体的には、会員増強プロジェクトと連携した「企業内ワークショップ支援サービス」の実現や、HP の改善、会員企業の PR の場を設けるなどの施策を実現し、法人会員の利点をアピールしていく。
- ・システム監査企業台帳登録企業への入会案内の送付、システム監査に係わりの深い企業に対する呼びかけは継続して実施していく。
- ・法人部会、さらには当協会の活動成果のアピールが会員の増強につながるので、活動の充実を図っていく。

(2) 情報セキュリティセミナーの企画・実施

- ・2012 年は、千葉県香取市様からセミナー講師派遣の依頼があり、法人会員企業が講師になりセミナーを実施すべく活動した。（実施は 2013 年 2 月の予定）
- ・当協会の知名度向上にも意義のある活動であり、セミナーの内容の充実、実施事例のアピールなどによって、さらに広報を行い、実績を上げたい。DM および Web サイトでの案内に加えて、新たな案内方法を検討する。

(3) 会報での法人会員企業紹介

- ・かねてより会報での法人会員企業紹介を検討して来たが、2012 年は諸事情により中断していた。法人会員企業にとってメリットのあることであり、2013 年は引き続き、会報担当と検討していく。

(4) 会員同士の情報交換

次のようなテーマで、会員企業同士で意見交換を行っていく。

- ・システム監査のビジネス化
- ・システム監査を取り巻く情報；昨年に引き続き、クラウドコンピューティングにおける情報セキュリティをテーマに、情報・意見交換を行っていくが新テーマについても検討する。

(5) 定例部会

- ・原則、月 1 回開催する。

4. 研究会・計画

>目次

4. 1 月例研究会

(1) 月例研究会の開催回数について

- ・2012 年度は前年度比 1 回増の年間 10 回の研究会を開催した。
- ・2013 年度も年間 10 回の開催を予定したい。

(2) 各回のテーマ／講師について

- ・引続き会員の興味を引く、鮮度のよいテーマの選定に努めたい。
- ・年度のテーマの選定にあたり、広く理事全員からも意見を出してもらい参考にする。
- ・また、分野については特定分野に偏らずバランスよく選定していきたい。
- ・講師については、今年度も官公庁、諸団体、民間、大学教員及び当協会関係者等のバランスを考慮していきたい。

(3) 運営の改善等について

- ・2012 年は会場を機械振興会館にすることにより、最寄り駅からの距離は多少伸びたが、前より会場費が低減できた。2013 年も引き続き利用することで進めたい。
- ・参加者の内 30% 以上を占める非会員参加者の入会勧奨を、他の研究会、その他の活動紹介と合わせて実施する（案内印刷物の配布、開催前にスライドを映写）。

- ・参加者の内、当協会の会員以外の方の割合が約31%（前年比6%減）となった。これは他団体の研究会の開催と重なってしまったことが原因であり、本年は参加者の期待に応えるためにも、他団体の研究会日程と重複しないよう今後可能な範囲で考慮することとしたい。

4. 2. システム監査事例研究会

[>目次](#)

(1) システム監査サービスの受託・実施

事例研究会の活動の源泉になるものであり、積極的に受託活動を行う。

月例研究会や事例研主催のセミナー参加者に対する、パンフレットの配布や個別面談でニーズを確認し、受託につなげる。

(2) システム監査実務・実践セミナーの開催

公認システム監査人制度の教育制度の一環として、確実にシステム監査実務セミナー4日間コースを2回開催したい。監査サービス実施結果に基づき新教材の開発を行い、システム監査未経験の会員及び公認システム監査人補にシステム監査実務を経験する機会を提供していきたい。

また、セミナー講師の育成を平行して進めたい。

具体的な開催計画は、以下の通り。

① 21回システム監査実務セミナー4日間コース

1) 日程：2013年2月2～3日、2月9～10日

2) 会場：東京都中央区

② 22回システム監査実務セミナー4日間コース

1) 日程：9月開催予定

2) 会場：東京都中央区

(3) 事例に学ぶ課題解決セミナーの開催

昨年同様4回の開催を予定する。今年は事例を増やすことを目標として、会員の活動の活性化や、各支部との連携を図る。

(4) 各種の社内監査業務（ワークショップ）支援サービスの提供

これまででは、事例研究会としての情報発信が足りなかったとの反省を踏まえ、企業内で監査業務を担当している人たちを支援する、様々なサービスメニューを用意する。

(5) 月例会の活性化

毎月開催している月例会の運営を見直し、

①手持ちのセミナー教材をベースに、事例研メンバーが参加して監査作業を再現する。

②研究対象をシステム監査実務に限定せず、最新の情報技術やサービスの動向も対象とし、それらに対して主体的に関わって見解を出していく。

4. 3. 情報セキュリティ監査研究会

[>目次](#)

(1) 2013年度研究テーマについて

前年度に引き続き、セキュリティ問題について、その問題の所在と本質の把握をすることに取り組んでいく。

年度前半は、2013年度に開始した、スマホやソーシャルメディアの普及やビッグデータの利活用の進展でリスクが増してきた個人情報の問題を研究テーマとし、2012年3月発行、IPA（独立行政法人 情報処理推進機構）「くらしと経済の基盤としてのITを考える研究会報告書 つながるITがもたらす豊かなくらしと経済 ～ ビッグデータの価値と信頼 ～」をテキストに、個人情報に係る部分を中心にした精査を継続する。この議論の成果を年度前半にまとめる。

その後は、その成果の上に、この問題に対する当研究会としての対策を検討し、それをもって2013年度成果とする。

(2) SNSの利用について

前年度に研究会内部で試行したSNSによるオンラインの対話を協会全体、できれば外部にも広げ、研究会活動をより開かれたものにしていきたい。これにより、研究活動にICT革命の成果を反映させるとともに、異質のメンバーの取り込みによる多様性に富んだ深い議論を展開し、さらには協会のプレゼンス向上につなげたい。

情報セキュリティ分野は課題山積みであるが、研究会メンバーとの対話や上記SNSでの議論のなかで、問題の本質を掴み、新たな展望を開くことができると思う。

4. 4. システム監査基準研究会

[>目次](#)

(1)研究項目

SAAJシステム管理基準体系

(2)活動項目

①IT Audit の ISO 化支援 (ISO/IEC30120)

昨年の11月にISOのWGが再編成され議長も交替したために、今後の作業方針を確認のうえ、引き続き基準研メンバーにより原案作成等を支援予定。

また以下の国際会議に参加予定である。

1) 2013年3月：オーストラリア会議

2) 2013年秋頃：東京会議

会報等により、会員向けにも極力情報を提供していく。

②各種開発環境・手法における監査のポイント (昨年度中断したテーマ)

1) 「Webシステムにおける監査のポイント」(開発・利用)

2) 「BCMにおける監査のポイント」

3) 「プロジェクトマネジメント監査のポイント」等

上記ISO化検討作業を優先して行うこととしたため会全体としては中断中である。

ISO化の状況により再開を検討していく。

(3)研究会の開催

・定例研究会は原則月1回。ISO化に係る検討は随時開催予定。

4. 5. 個人情報保護監査研究会

[>目次](#)

2013年の活動方針として、以下の3項目を掲げる。

①「PMS実施ハンドブック」の電子版のリリースを計画している。現在の研究会情報共有Web環境を利用して、無料公開サイトと、認証が必要なサイトを組み合わせて構築する。

②「6か月で構築するPMSセミナー」については、協会のサイトからの誘導、メール案内、経友会事務局との連携などを強化し継続していく。

③すでに公開している「個人情報保護監査サービス」をベースに、「6か月で構築するPMSセミナー」「Pマーク取得支援」をホームページに案内する。

④個人情報保護監査研究会は、これまで「PMS実施ハンドブック」の策定のため、メンバーを限定していたが、今後、メーリング・リスト利用による意見交換をベースに参加者を募集する。

5. 支部・計画

[>目次](#)

5. 1. 北海道支部

1. 定例研究会・勉強会実施

研究会は、テーマを決めて隔月で実施する。基本的に支部員が持ち回りで講師を務める。また、本部より送付される月例会のビデオテープを上映する勉強会を隔月で実施する

2. 講演会の実施

年に1度、外部より講師を招いて講演会を実施、広く一般に公開する。他団体との共催により聴衆を増やし知名度を高めるとともに、広く交流を図る

3. システム監査の実践

北海道でのシステム監査普及サービスを試行する。また北海道でのシステム監査ビジネスの普及に向けての調査を行う

4. 広報

支部活動について対外的な広報、および支部員勧誘を行う。

対外的な広報に関しては、協会のホームページの北海道支部のコーナーを充実させる

5. メーリング・リストによる連絡

支部メーリング・リストにより、支部員間の連絡および情報交換を行う

6. 支部体制

- 支部長 : 大館広之
- 副支部長 : 小林弘幸
- 会計 : 谷口泰正
- 監事 : 小柳政行
- 研究会担当 : 菊地 圭、本多鉄兵
- ML担当 : 渡部洋子
- 広報担当 : 曾根本 育裕

5. 2. 東北支部

[>目次](#)

1. 月例研究会及び役員会

- ・定例会を2ヶ月に1回程度、交流会を7月または9月に開催する。
- ・毎回、会員による活動事例発表を講演する。
- ・定例会の開催場所は仙台市の他、各県での開催を検討しつつ運営する。場所は別途検討する。、
詳細内容は4月の定例会にて決定する。

2/2 (土)、4/13 (土)、6/22 (土)、8/24 (土)、10/5 (土)

- ・交流会の詳細は別途検討する。
- ・次年度の総会開催に関する役員会を開催する。 11/8 (金)

2. 広報活動

- ・各県のITコーディネータ組織、日本ITストラテジスト協会東北支部との連携を図り、当協会、東北支部の広報宣伝活動を強化する。
- ・協会ホームページの支部便りを活用し、特に、東北支部地域へのシステム監査に関する情報の発信を行う。
- ・協会本部と連携し、入会勧誘の宣伝をする。

3. 会員増強

- ・情報処理試験（システム監査技術者）合格者などを対象に会員加入を推進する。

4. システム監査普及サービスの実施

- ・今年度は、更に会員がシステム監査を体験できるように、システム監査普及サービス対象企業を募り、事例研究会と共同開催を目指す。

5. ワークショップの開催

- ・ワークショップの開催については、ITCみやぎ及び日本ITストラテジスト協会東北支部と協議する。

6. 支部役員

- 支部長 : 横倉正教
- 副支部長 : 高橋壮太
- 会計 : 佐藤雅英
- 研究会 : 小野寺司、小野寺学
- 広報 : 櫻谷昭慶、館田あゆみ
- 監事 : 成田由加里
- 顧問 : 鈴木実

5. 3. 北信越支部

＞目次

1. 本年度の目標

支部会員の能力向上と支部の技術基盤向上を目指します。

- ・研究チーム継続によるシステム監査の技術基盤の向上
 - －システム監査研究会
 - －情報セキュリティ監査研究会
- ・本部、他支部との交流による知識、技術力の向上
 - －研究会ビデオの貸出し運営
- ・北信越支部設立10周年イベントととして「西日本支部合同研究会 in Kanazawa」を開催
- ・プレゼンテーション能力の向上
- ・インターネットを活用した組織コミュニケーションの向上

2. 活動計画

- ・3月16日 年度支部総会（富山）
- ・6月8日 福井県例会
- ・9月7日 新潟県例会
- ・11月23日 西日本支部合同研究会 in Kanazawa（北信越支部）
- ・12月7日 石川県例会

各研究チーム報告を 支部総会、各県例会にて実施予定。

3. 支部役員案

- 支部長 : 宮本茂明（石川）、
- 副支部長 : 梶川明美（富山）
- 会計 : 坂井敏之（富山）、
- 情報統括 : 清水尚志（石川）
- 顧問 : 伊藤祐太郎（富山）、森広志（富山）
- 県部会長 : 角屋典一（福井）、木村武志（石川）、國谷吉英（富山）、
風間一人（新潟）、藤原康弘（長野）
- 書記 : 尾島純子（富山）、
- 監事 : 高瀬清春（富山）

5. 4. 中部支部

＞目次

1. 活動方針

- ・中部支部内会員の継続的な相互研鑽・交流を図る。

（会員の担当事業又は研究などの日頃行っている業務をテーマに課題などを共有化し会員でのデ

イスカッションを通して課題解決への方向性や気付きの場所を提供する。)

- ・中部支部以外の地域や団体との情報交流を積極的に展開していく。
- ・SAAJの原点に戻った活動を推進する。(例:システム監査技術向上)

2. 活動体制(敬称略)

- 支部長 : 栗山 孝祐(理事)
- 副支部長 : 大友 俊夫(理事)(例会担当)、澤田裕也(イベント担当)
- 会計担当 : 安井 秀樹(再任)
- 会計監査 : 早川 晃由(再任)
- 顧問・監事 : 田中 勝弘
- 支部担当役員 : 山崎(敏)(広報担当)、石井(研究開発担当)
原(国際取引研究・国際交流)、堤(デジタルコンテンツ担当)
萬代(システム取引法務研究)、田中(勝)(本部研究会ビデオ管理担当)

3. 活動内容(予定)

(1)例会

(奇数月(1月、3月、5月、7月、9月)の土曜日)

(2)合宿(11月頃)(日本ITストラテジスト協会と共同開催を検討)

土曜日午後から日曜日の午前中、テーマ;未定

(3)その他

- ・メーリング・リスト等を通じた会員の相互交流、情報提供
- ・Facebook等を活用して中部支部の活動の広報と活性化
- ・中国などとの交流
- ・西日本支部合同研究会(北信越支部主催予定)への参画
- ・その他

5. 5. 近畿支部

>目次

1. 活動方針

- ・定例研究会・システム監査勉強会を基本として、研究プロジェクト・グループ活動を通じて実践的な研鑽活動を行い、更に支部活動を充実させる。
- ・本部の会員増加プロジェクトの活動に連動して、支部会員の増強に努める。
- ・なお、従来の「研究会」の名称は、「定例研究会」と紛らわしいため、今年度より「研究プロジェクト(略称:研究PJ)」と名称を変更する。また「ワーキンググループ(WG)」の名称も、支部活動を支える継続的な活動であることを明確にするため、「セミナーグループ」「ITサービスグループ」に名称を変更する。

2. 支部体制(敬称略)

(1)支部役員

- 支部理事(支部長) : 林裕正(留任)
- 支部理事(副支部長・会計) : 是松徹(留任)
- 支部理事(副支部長、BCP研究PJ) : 荒町弘(留任)
- 支部担当役員(コンプライアンスのシステム監査研究PJ、クラウド研究PJ) : 雑賀努(留任)
- 支部担当役員(システム監査法制化研究PJ) : 田淵隆明(留任)
- 支部担当役員(BCP研究PJ) : 大塚一志(留任)
- 支部担当役員(セミナーグループ) : 広瀬克之(留任)
- 支部担当役員(ITサービスグループ) : 永田淳次(留任)
- 支部監事 : 福徳泰司(留任)

(2)支部参与

○安本哲之助（留任）、吉田博一（留任）

(3) サポーター

○鈴木章彦、吉谷尚雄、松井秀雄、神尾博、金子力造、三橋潤、植垣雅則（7名留任）、
○松浦康弘氏（新任）（順不同）

のサポーター各位の協力を得て、支部活動を行う。

3. 定例研究会

- 1) 内容：当協会会員を中心とした講師により講演会形式の研究会を開催する。
- 2) 開催時期：奇数月の第3金曜日、及び12月に開催する。（計7回の予定）
- 3) 西日本支部合同研究会については、従来通り参加する。

4. システム監査勉強会

- 1) 内容：協会本部主催の月例研究会のDVDの視聴による勉強会を実施する。
- 2) 開催時期：12月を除く偶数月の第3土曜日に開催する。（計5回の予定）

5. システム監査セミナーの実施

(1) システム監査体験セミナー

一日コースのシステム監査の体験研修を行う。

(2) システム監査事例セミナー

会員の監査体験に基づく実践的な講演の開催を計画する。

(3) システム監査セミナー（セミナー名称は未定）

実践セミナーの内容を再検討し、受講生のニーズに合った体験セミナーからより実践に近いセミナーを企画する予定。

6. 研究プロジェクト・グループ活動

(1) コンプライアンスのシステム監査研究プロジェクト

- ・主査：雑賀努氏 副主査：吉田博一氏
- ・コンプライアンスのシステム監査基準の作成を目標として、システム監査学会との共同プロジェクトとして実施する。なお、4月以降の活動については、今後検討する。

(2) システム監査法制化研究プロジェクト

- ・主査：田淵隆明氏 副主査：神尾博氏
- ・システム監査の法制化の実現のための研究を継続する。今年度は、特に、自然エネルギー関連のシステムに関するシステム監査の在り方、及び、関連の法制化をテーマとする。

(3) BCP研究プロジェクト

- ・主査：荒町弘氏 副主査：大塚一志氏
- ・企業におけるBCP策定にあたっての課題等についてシステム監査人として検討する。2012年度に設定したテーマにもとづき、具体的な活動に取り組む。

(4) クラウドコンピューティングのシステム監査研究プロジェクト

- ・主査：松田貴典氏 副主査：雑賀努氏 深瀬仁氏（システム監査学会）
- ・クラウドコンピューティングにおけるシステム監査について、システム監査学会と共同プロジェクトとして実施する。なお、4月以降の活動については、今後検討する。

(5) セミナーグループ

- ・主査：広瀬克之氏
- ・昨年度の実績と反省を踏まえ、システム監査人の育成、及びシステム監査の普及に繋がるようなセミナーを企画し、開催する。

(6) ITサービスグループ

- ・主査：永田淳次氏 メンバー：前年度メンバーに加え参加者を募集する。
- ・近畿支部の諸活動の可視化と活性化支援を目的として、以下の活動を行う。
 - 1) サイト、MLの安定運用
 - 2) サイトの充実：目標：月1回以上更新。会員紹介、研究論文・定例会報告等の公開。
 - 3) メールマガジン発行：目標：年間6回以上。サイト更新情報の定期報告等運用、管理にか

かわる関連ルールの整備。

4) その他：活動内容（苦労話など）のコラム化等。

7. 支部創設25周年記念研究大会の開催

近畿支部は、1988年（昭和63年）3月に発足した。2013年度は、支部創設から25周年の節目の年となるため、記念行事として支部会員の発表を中心とした研究大会を開催する。統一テーマは、システム監査が多様化している昨今の状況を踏まえ、「システム監査の新領域への対応」としたい。開催日は、2013年7月を予定し、今後、募集する実行委員を中心に開催に向けた準備を行う。

5. 6. 中四国支部

[>目次](#)

1. 活動方針

- ・中四国支部会員及び公認システム監査人の継続的な研鑽と情報交換の場を提供する。
- ・中四国地域で唯一のシステム監査人の団体として、システム監査に関する窓口組織となるべく広報活動等によりシステム監査の普及に努める。

2. 活動計画

(1) 例会の開催

- ・月例研究会のビデオ視聴
- ・その他、情報交換

(2) 他支部、他団体との連携

- ・地域の諸団体との共催によるセミナー開催

3. 役員体制

- 支部長：溝下博
- 副支部長：福田陽一、廣末浩之、田川誠
- 会計：福原博明
- 監事：本多美和子
- 顧問：大谷完次

5. 7. 九州支部

[>目次](#)

1. 活動計画

(1) 月例会の開催 原則月1回の月例会を継続する。

- ・参加者が発表しやすい企画。
- ・年1～2回程度の外部講師による講演の企画。
- ・システム監査学会九州地区研究会およびISACA福岡支部との連携

(2) イベント企画・推進

①支部主催 イベント

開催するイベントは目的明確にして、支部活動（目標・戦略）に即したものとする。

- ・（案）システム監査月間

②テーマ活動

- ・研究活動（支部会員のシステム監査の技術水準向上）
 - － システムリスクの研究
 - － 協会講座の利活用
- ・普及活動（支部においてシステム監査の普及）
 - － システム監査の重要性・価値をアピール
- ・営業活動（支部会員のシステム監査ビジネスの拡大）
 - － システム監査人（資格）の有効性・信頼性を発揮

(3) 他支部、他団体との合同企画・開催。

- ・西日本支部合同研究会の開催
2012 年度は北信越支部主催で開催予定
- ・福岡 ITC 推進協議会ははじめ九州各県の ITC 組織、日本 IT ストラテジスト協会九州支部等の関連団体とのイベント共催を推進する。

(4) 関連他団体との連携、情報発信の活発化

- ・関連団体主催のイベントへの後援などを通じ連携を深めるとともに、当協会の紹介などを活発に行う。

(5) メーリング・リストによる情報・意見交換の一層の活発化

(6) 情報発信、広報活動の活性化

- ・支部の活動計画、実績をホームページでも発信し、広報に努める。

(7) その他、支部会員の維持・拡大

- ・支部の求心力を向上する。

2. 役員体制

- 支部長 : 中溝統明
- 副支部長 : 舩津 宏 荒添美穂
- 会計 : 居倉圭司
- 監査 : 松嶋 敦
- 事務局 : 福田啓二
- 地区担当 : 長崎 平山克己
大分 梶屋博史
鹿児島 山下博美
熊本 桐原光洋 (新任)

1. 2013年度 特定非営利活動に係る事業会計 事業予算科目案

2013年1月1日から2013年12月31日まで

特定非営利活動法人日本システム監査人協会

第12期

(単位：円)

科 目	予 算 (細目)		備考
I 収入の部			
1 入会金・会費収入	7,800,000		
入会金収入		100,000	
会費収入		7,700,000	
2 事業収入	6,486,000		
普及・啓発、広報事業		0	
研究・研修事業		5,086,000	月例会、セミナー、研究会等
認定事業		1,400,000	認定料、登録料、更新料
3 寄付金収入	300,000		
4 その他収入	1,563,000		
支部収入		2,629,000	支部研修会収入等
		△ 1,066,000	本部助成金
雑収入		0	受取利息等
当期収入合計（A）	16,149,000		
II 支出の部			
1 事業費	8,733,000		
普及・啓発、広報事業費		3,076,000	会報、パンフ、ホームページ等
研究・研修事業費		5,132,000	各研究会、セミナー講師料等
認定事業費		525,000	認定員手当、認定証作成費
2 管理費	8,217,000		
通信費		77,000	
旅費交通費		544,000	
消耗品費		92,000	
会議費		280,000	
事務局手当		2,145,000	
事務所運営費		1,765,000	
ハード・ソフト費用		255,000	
支部経費・運営費		2,744,000	
雑費		315,000	
3 予備費	300,000		
4 減価償却費	300,000		
5 租税公課	0		
当期支出合計（B）	17,550,000		
当期収支差額（A）－（B）	△ 1,401,000		

以上 ■